

# 明日の国

—その生活と開拓—

# パラグアイ



財団法人 日本海外協会連合会

## 海協連在外支部アドレス

### アマゾン支部

Junzo Furuta  
 AV. Casilho França 140,  
 Caixa Postal 421,  
 Belém, Pará  
BRASIL (電略 KAIKYO BELEM)

### アマゾン支部マナオス事務所

Masatoshi Takamura  
 Rua das Andradas, 354,  
 Manaus, Amazonas,  
BRASIL

### アマゾン支部モンテ・アレグレ試験農場

Jiro Izeki  
 Monte Alegre, Pará,  
BRASIL

### リオ・デ・ジャネイロ支部

Akira Otani  
 a/c Embaixada do Japão,  
 Rua das Laranjeiras, 192,  
 Rio de Janeiro,  
BRASIL

### リオ支部レシーフ事務所 (住所変更)

Shinzo Ohama  
 Rua Santa Rita 53,  
 Recife, Pernambuco,  
BRASIL

### サンパウロ支部

Daisaku Osawa  
 a/c Consulado Geral do Japão,  
 Praça Dom José Gaspar, 30, 9º and.,  
 São Paulo,  
BRASIL

### サンパウロ支部ホルト・アレーゴ

Sigechi Sugitani  
 Rua Caldas Junior, No. 225,  
 Porto Alegre,  
 Rio Grande do Sul,  
BRASIL

### パラグアイ支部

Go Hioki  
 Casilla de Correo No.34,  
 Encarnación,  
PARAGUAY  
 (電略 ENCARNACION GO HIOKI)

### ボリビア支部

Yasuo Wakatsuki  
 Casilla No.464,  
 No.385, Calle Bolívar,  
 Santa Cruz,  
BOLIVIA  
 (電略 COPANESA SANTA CRUZ)

### アルゼンティン支部

Ryohei Katayama  
 a/c Cooperativa de Colonización  
 Argentina LTDA.,  
 Defensa 536, Buenos Aires,  
ARGENTINA

### コロンビア支部

Sukeaki Tomiya  
 a/c Embajada del Japón,  
 Calle 35 No.4-25/29,  
 Bogotá,  
COLOMBIA

### ドミニカ支部

Ichitaro Yokota  
 Edificio Baquero No.516,  
 Calle "Hostos" No.38,  
 Ciudad Trujillo.

国際協力事業団

22649

受月登

JICA LIBRARY



1092314(2)

### 発刊のことは

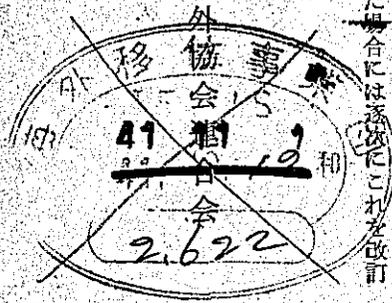
昨年の七月に日本とパラグアイの間に移住協定が結ばれ、向こう三十年間に八万五千人の日本人がパラグアイへ移住できることになったが、当会ではこの際、将来性ある生活を求めて移住を希望される方々にできるだけ現地の事情を知っていただきたいと考え、新たに「明日の国パラグアイ——その生活と開拓——」を発刊することにした。

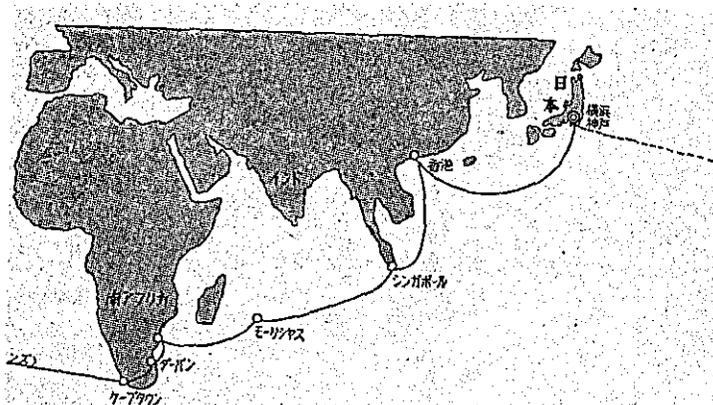
本書が今後のパラグアイ移住促進のため、また移住される方々のため少しでもお役にたてば幸いである。

なお、将来、情勢の進展、変化に伴って内容を改める必要が生じた場合には逐次これを改訂し、さらに完璧なものにしたいと考えている。

一九六〇年六月一日

<b>国際協力事業団</b>	
受入月日	58. 8. - 4
登録No.	AA39
日本海外協会	E709 23





目次

はしがき……………六

I バラグアイ、海のない若い国……………九

海のない若い国……………一〇

風土、地勢……………三

東南部の開発と国際道路……………四

産業……………四

運輸の問題と日本よりの造船借款……………六

米国の経済援助……………九

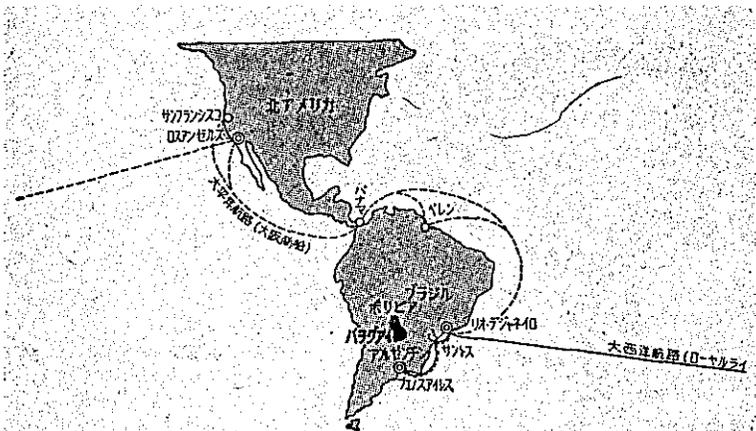
動き出すバラグアイ……………一〇

II 発見から現在まで……………三

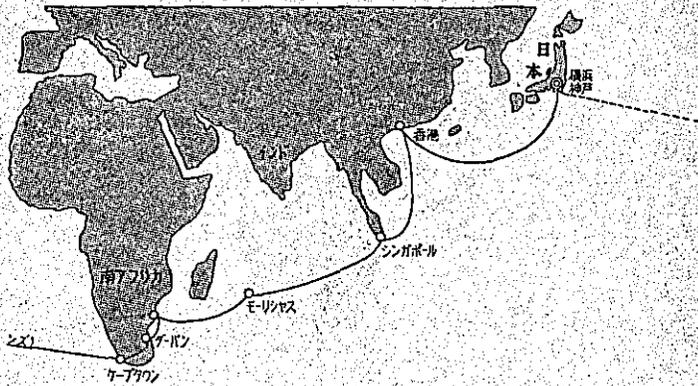
発見……………三

シエスイット教団の渡来……………三

独立……………三



	三国戦争、チャコ戦争……………三
	現在の政情……………四
Ⅲ	テラ・ロッシュ、バラグアイの自然……………七
	気候……………六
	土壌……………三
	動物……………三
	植物……………三
Ⅳ	牛車とジェット機と……………七
	鉄道、道路……………六
	船舶……………四
	国内航空……………四
	国際航空……………四
Ⅴ	「アスタ・マニャーナ」、バラグアイの生活……………四
	住民……………四
	「楽しむために働く」バラグアイ人……………七
	お祭りと食事……………四



Ⅶ

- 果物……………
- マテ茶の廻し呑み……………
- パラグアイのドイツ系人……………
- パラグアイの宗教……………
- 教育……………
- パラグアイ人気質……………
- 衛生……………
- 水……………
- 下水道、便所……………
- 燃料、電気……………
- 文化、娯楽、スポーツ……………
- コルメナからアルト・バラナまで……………
- 日本人入植の経過——
- パラグアイ移住の始まり……………
- 戦前のコルメナ移住地……………
- 戦時のコルメナ移住地……………

果 物…………… 空

マテ茶の廻し呑み…………… 空

パラグアイのドイツ系人…………… 空

パラグアイの宗教…………… 空

教育…………… 空

パラグアイ人気質…………… 空

衛生…………… 空

水…………… 空

下水道、便所…………… 空

燃料、電気…………… 空

文化、娯楽、スポーツ…………… 空

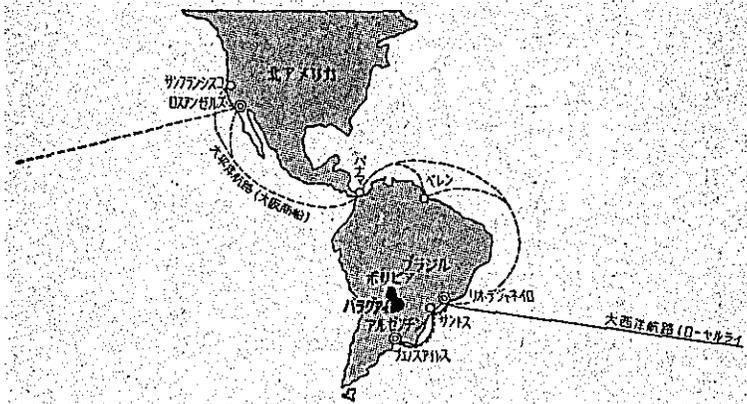
コルメナからアルト・バラナまで…………… 空

——日本人入植の経過——

パラグアイ移住の始まり…………… 空

戦前のコルメナ移住地…………… 空

戦時のコルメナ移住地…………… 空



戦後のコルメナ移住地……………	一〇
チャベス、フラムの伸展……………	一一
カフエ耕地……………	一二
アルト・バラナ移住始まる……………	一三
アルト・バラナはこういふところ……………	一四
近くの町や村……………	一五
協同組合について……………	一六
アルト・バラナの営農はこのように……………	一七
資格、手続き……………	一八
入植条件と受入れ態勢……………	一九
結び、バラグアイ移住の将来……………	二〇
附 日・バ移住協定……………	二一
イタプア農協連定款……………	二二
イタプア農協連一九五九農年度事業計画……………	二三

(写真 佐伯啓三郎氏提供)

## はしがき

移住といえはブラジルを想い出す位ブラジルは日本人移住者の受入国として知られていますが、最近ではブラジルの他、ドミニカ、アルゼンチン、ボリビアなど中南米の国々の中でも特にパラグアイの名が大きくクロース・アップされてきました。

昨年七月二十三日には日本とパラグアイの間に移住協定が結ばれ三十年間に八万五千人の日本人移住者が受入れられることになり、その第一段階として日本海外移住振興会社はパラグアイの東南部アルト・パラナ地区に佐渡ガ島と同じ広さの肥沃な原始林地帯を購入し、移住地として整備し、向う五カ年間に二千家族を入植させることになりました。

パラグアイには現在まですでに約五千人の日本人が移住しています。とくに戦前に開設されたラ・コルメナ移住地はパラグアイの模範農村として知られており、そこで生産される葡萄酒は「日本娘（ハポネシータ）」、「コルメナ娘（コルメニータ）」と名付けられアルゼンチンへも輸出されております。又、戦後入植したチャベス・フラム地区も協同組合を中心に着実に安定した営農生活をきずきあげつつあり、夫々郷里に希望ある便りを寄せ、「移住してよかった。もっと沢山の日本人が来てほしい」といっています。しかし、これらの地区は、ほぼ一杯にな

ったので、今度のアルト・パラナ地区へ入植の運びとなったものです。

現在第一陣二四〇家族が募集されていますが、働らきたくても十分な土地がない日本の多くの農家の方やその他移住を希望する人達には全く明るいニュースです。

さてこのように自営開拓移住のチャンピオンとなったパラグアイとは一体どんな国でしょうか。

中南米主要受入国国情一覽表

国名	面積	人口 ( )内は 人口密度	首都		通貨	政 国
			名称	人口		
アルゼンチン	2,797千平方K (日本の約8倍)	19,868千人 (1平方K7.1人)	ブエノス・アイレス	3,574千人	ペソ (約4円強)	共和国
ブラジル	8,516千平方K (日本の約22倍)	62,725千人 (1平方K7.3人)	リオ・デ・ジャネイロ ※	2,600千人	クルセイロ (約3円)	"
パラグアイ	406千平方K (日本よりやや 大きい)	1,620千人 (1平方K4人)	アスンシオン	205千人	ガラニー (約3円)	"
日本	369千平方K	93,200千人 (1平方K249人)	東京	9,300千人	円	君主国
ボリビア	1,098千平方K (日本の約3倍)	3,990千人 (1平方K2.7人)	ラ・パス	321千人	ボリビアン 1円=約83 (ボリビアン)	共和国
コロンビア	1,138千平方K (日本の3倍強)	13,297千人 (1平方K11.6人)	ボゴタ	643千人	ペソ (約50円強)	"
ドミニカ	55千平方K (日本の1/10と同等 を合計すると5倍)	2,698千人 (1平方K49人)	サンタフェ・ ド・トルヒーロ	181千人	ペソ (約360円)	"

(※ 本年4月ブラジリアンに移転)

I  
パラグアイ、海のない若い国



### 海のない若い国

それではパラグアイとはどういう国でしようか。

南米の地図をご覧下さい。南米には十の共和国がありますが、その中で海のない国が二つあります。ボリビアとパラグアイです。アンデス山脈を南米の背骨とするとパラグアイの位置は丁度、南米の「べそ」のところにあたります。面積は四〇万四千平方キロメートルで、日本よりやゝ大きいのですが人口はたった十六二万人（牛は六〇〇万頭いますが）に過ぎません。国の予算も一九五九年には日本のお金に換算して約九〇億円ということからみてもまだ、若い国であり、発展の可能性を将来に残している国であるといえます。

186万  
(1962年)



## 風土、地勢

地図でご覧のようにパラグアイは、ボリビア、ブラジル、アルゼンチンの三国と境を接しています。パラグアイ国のほぼ中央を南北に貫いて流れているのがパラグアイ河で、この河を境に国土は東部パラグアイ、西部パラグアイと呼ばれ、それぞれ異なった風土をもっています。



西部パラグアイは北西部をボリビア、南西部をビルコマヨ河を境にアルゼンチンと接する地帯で、草原が多く、牧畜が広く行なわれております。

パラグアイ河の沿岸地帯は低地帯で、ケブラーチョ(タンニンを抽出する)などの有用樹木の産地として知られています。

パラグアイ河を境とする東側の地域は、いわゆるテラ・ロ

A表 国土利用区分 単位千ヘクタール  
1953~54年

区 分	面 積	比 率
農 地	1,670	4.1%
草原, 放牧地	16,100	39.6
山の 林	21,905	53.9
その他	1,000	2.4
計	40,675	100

B表 農地利用区分 単位千ヘクタール  
1953~1954年

農地利用区分	面 積	比 率
耕作地	365	22 %
休耕地	152	9.1
草地	705	42.2
森林	400	24
宅地	18	1
その他	30	1.7
計	1,670	100

東部パラグアイの北から中央にかけては、低いなだらかな山脈が連なっており、これらはブラジルの高地に続いています。この山脈はパラグアイ河とアルト・パラナ河の分水嶺を形成しており、特にアルト・パラナ河に面する東側は原始林の繁茂は著しく、全くの未開発地となっています。

ツシヤ地帯でなだらかな起伏の多い地形をなし、うっそうと原始林が続いており、ラバークォその他の有用硬木材の産地であります。パラグアイの人口、主要都市、産業は延長二、五五〇キロメートルのパラグアイ河下流の肥沃な土地に集中しております。

(註) ケブラーチョ……はスペイン語のケブラ・アーチャ(「斧こわし」)の意。この木は硬く重く水に浮かない。家具材に用いると年とともに黒つやがでて非常に美しい。――)

### 東南部の開発と国際道路

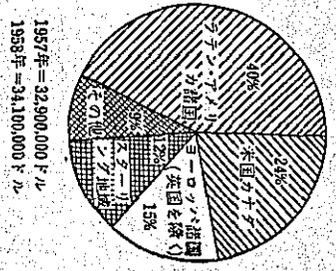
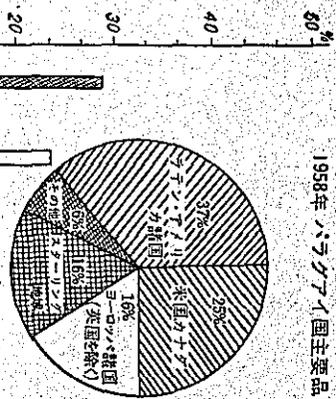
パラグアイ国の開発計画の重点は、この肥沃でしかも未開発の東南部地帯におかれていす。本年八月に開通が予定されているアスンシオンからブラジル大西洋沿岸の海港パラナグアに通ずる千百二十七軒の国際道路もこの地帯を貫通するもので、沿線一帯の農産物の発展に大きな貢献が予想されます。又、これまでパラグアイの生産物は後に述べるようにアルゼンチンのブエノス・アイレス経由で輸出されていましたが、この国際道路が開通すれば、時間的にみて、いままでより非常に短縮されるので、パラグアイの産業、経済はぐんと伸びることが期待されています。

(註) 河船で、アスンシオンからブエノス・アイレス経由でパラナグア港までは約二十日かかるが、国際道路を自動車便で行けば約三〇時間弱で達することができる。)

### 産 業

パラグアイは一般に農業国といわれます。しかし、いわゆる農業はそれほど大したことはな

1958年バングラデシュ国主要品目別輸出高(100%, 単位百万ドル...1ドル360円)



1957年 = 32,900,000ドル  
 1958年 = 34,100,000ドル

品目名	1957年	1958年
小麦	28.6	23.6
食肉	9.74	8.08
綿花	7.09	3.73
ガラス	7.02	7.47
羊毛	3.8	1.98
茶	3.3	1.51
タバコ	1.6	1.24
糖	2.3	2.60
芥子油	2.0	0.69
果実	0.9	0.32
その他	7.7	2.55

く、牧畜がその主なものであります。

工業はほとんど無いに等しく、唯、最近、綿糸や絹織物などが多少できるようになった位のもので鍋、釜からトイレット・ペーパーに至るまで外国よりの輸入によっているのが現状です。店に入っても、そこに並んでいる商品の大半が、ドイツ、英国、アメリカ、アルゼンチン、日本など各国よりの輸入品で占められています。

農業らしい農業をやっているのは、欧州系の移住者、たとえばドイツ人などで、彼らはマテ茶、ツング、ポメロ、オレンジ等を栽培しパラグアイの中産階級をかたちづくっています。日本人移住者もこの中産階級に入れることができるでしょう。

一般のパラグアイ人は大まかにわけて大牧場主(ニスタンセロ)と、牧夫(バケロ)・農業労働者(バオン)にわけることができ、他のラテン・アメリカの国々と同じく中産階級の層が小さいのが特徴です。

パラグアイの主な生産物は食肉、皮革、有用木材(特に硬木類)、マイス(とうもろこし)など農林産品やタンニン剤のケブラーチョ・エキスなどで、これらをアルゼンチン又は同国をへて海外へ輸出しているのです。



(写真E) 外国人移住者の子供

(写真右と左) 国際道路沿線



(写真右)  
オエナウ移住地(ドイツ人)の住宅

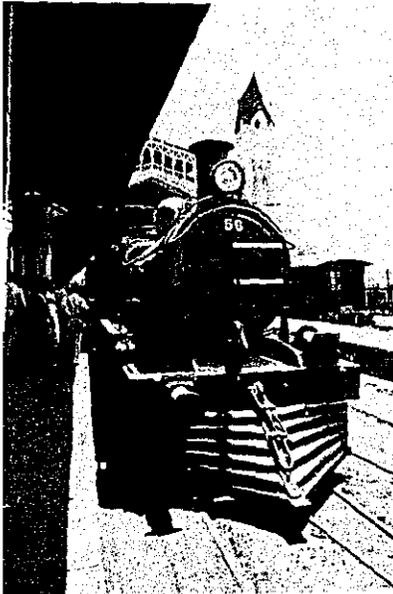




バラグアイの“お盆”のお墓まいり



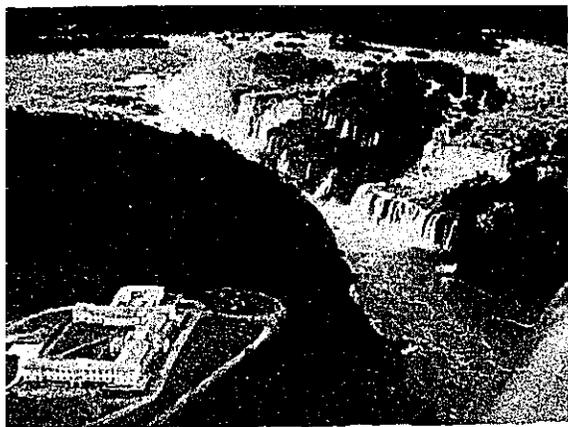
アスンシオンの目抜き通り



アスンシオン駅風景  
(薪をたく蒸気機関車の出発)



エンカルナシオンの公園風景



(写真下) ストロエスネル大統領  
ドイツ人移住者の二世であ



(写真左上)

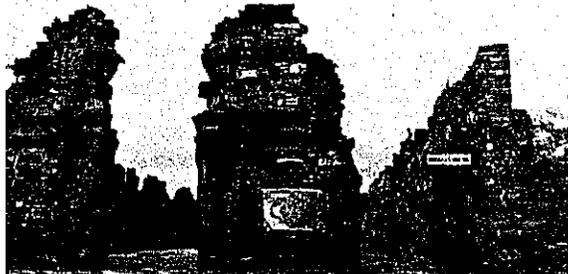
世界一のイグアス滝  
山4キロ 高さ90米

(写真中)

約四百年前に造られたジエスイ  
ツト教団の遺跡  
これと同じ規模のものがパラ  
アイに2カ所、アルゼンチン  
1カ所あり昔の人の創造性を  
のぼせる

(写真左下)

農村の牛車  
物資や材木の運搬には全部こ  
を用いる



(写真上) 可愛らしいパラグアイ  
の少女

(AT)

アスンシオンの植物園



(右左)

パラグアイ・インディアン  
はパラグアイ政府の保護の  
下に玩具の弓矢、帯などをつ  
つて生活している

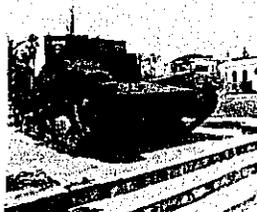
(右中)

ノカルナシオンとボサーダス  
の渡し船  
つぎ岸のパラグアイ婦人が見



(右下)

空のタクシー

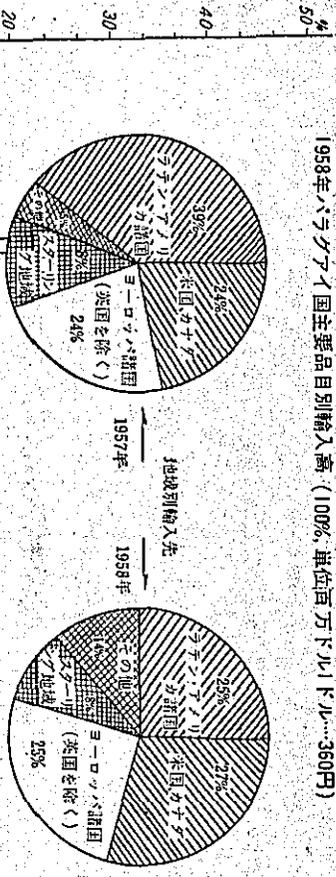


(右上)

チャコ戦争の際の戦利品



1958年パナグアイ国主要品目別輸入高(100%単位百万ドル)↓少…360円)



品目名	穀類	豆類	油類	糖類	繊維	金属	機械	輸送機	船舶	航空機	自動車	電機	化学	医薬	その他
輸入高	192	769	239	119	113	34	46	21	19	87					
金額(百万ドル)	6.75	5.50	7.78	3.89	3.69	3.05	1.51	0.67	0.63	2.69					

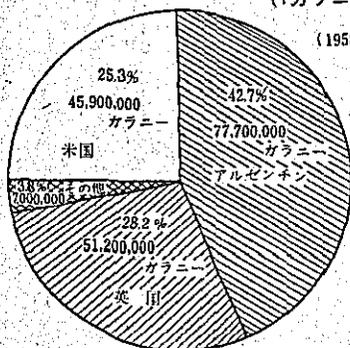
1957年=27,360,000ドル  
1958年=35,800,000ドル

## 運輸の問題と日本よりの造船借款

ところが、困つた問題があります。というのは、前にも述べたようにパラグアイは海のない国ですから、生産物はラ・プラタ河上流のパラグアイ河とパラナ河からラプラタ河を下りアルゼンチンのブエノス・アイレス（又はウルグアイのモンテ・ビデオ）に運ばれます。現在これらの運輸はパラグアイが自国船をもたないために、すべてアルゼンチンの船舶に頼らなければならぬ実情なのです。このためパラグアイは年間約二五〇万〜三〇〇万米ドルの運賃をアルゼンチンに支払わなければならず、同国の経済収支上大きな負担となっています。

この輸送問題の改善についてパラグアイ国は前々からいろいろ研究していましたが、日本の産業が戦後に驚くべき復興と発展ぶりを示したことをきいて、この際日本の協力を得て自国で相当数の船を持つと考へ、昭和三十一年日本へ造船借款の申入れを行いました。日本側もこれに應へ、昭和三十二年以来二回にわたつて専門技術団および経済調査団を派遣し、いろいろ調査し、話し合いを行つた結果、交渉がまとまり、昭和三十四年七月、造船借款に関する交換公文が取り交わされました。同時に日本・パラグアイ移住協定が結ばれて三十年秋に八万五千人の日本人移住者の入国が認められることになりました。そこで昭和三十四年秋にパラグアイ国の政府高官が来日し、日本の関係当局ならびに造船担当会社と協議した結果、具体的な話

パラグアイの民間による外資導入額 (ガラニー)  
(1ガラニー約3円)



がまとまり、一、一〇〇トン級貨物船四隻、一、二五〇トン級タンカー一隻、六五〇トン級家畜運搬船一隻、一〇五トン級曳船二隻、二〇〇トン級渡し船(フェリー・ボート)一隻、合計九隻の建造契約が結ばれました。

これらの船は昭和三十五年五月〜十月の間にいずれも完成し、現地へ送られます。永らくパラグアイの頭痛の種であった河川の運輸問題もこのようにして大巾に改善され、国際収支も今よりずっとよくなる日も間近になりました。

### 米国の経済援助

アメリカ合衆国も低開発国援助計画の一つとして、パラグアイに対して農事改良、国内産業の開発、教育、衛生などについて援助を与えております。このためポイント・フォアの事務所をアスンシオン市におき、同国に対する援助計画の実施にあつています。まず農事改良の面では、極めて

原始的なこれまでのパラグアイの農業を改善するため、各地に農事改良サーピスの機関（エステイカ、STICA）を設けて種苗、家畜の改良を行ない、また国内道路の建設に対しても機械、資材の提供や運営の指導を行なっています。その他教育、衛生などの面をひっくるめて米国は年間約五〇〇万ドルの援助をパラグアイ国に与え、国内開発と経済発展に協力しているのです。

### 動き出すパラグアイ

船舶借款、国際道路、それに最近成立をみた七カ国共同市場と、永い眠りからさめてパラグアイはようやく大きく動きたそうとしています。この開発と経済発展のための大きなテコの一つとしてパラグアイは日本人移住者の力に非常な期待をかけているのです。

Ⅱ 発見から現在まで



## 発 見

パラグアイには昔から北米大陸から移住してきたインディアンの一種族ガラニー族が住んでいましたが、一五二七年スペインの探検隊の一人であるセバステイアン・カボット（スペイン王カルロス五世につかえたヴェニス人）に発見されました。一五三六年八月、あとを引継いだファン・デ・アヨーラスおよびドミンゴ・イララは現在のアスンシオンに植民地を建設し、アundes山脈より東のスペイン領土の首府としました。

当時のパラグアイ州は現在のパラグアイ、ウルグアイの全部、ブラジルの一部およびアルゼンチンのブエノス・アイレス、エントレ・リオス、コリエンテス、ミシオネス四州およびサンタ・フェ州の一部を含んだ大地域でありました。

## ジェスイット教団の渡来

一五九一年エルナンド・アリオス・サリヴェドドラが総督に就任して以来、ジェスイット教団を招いて土人の教化に当らせ、布教区域は南緯二五度と三〇度の間の三〇カ町村に及びました。その間、その区域の人口は増加し、綿花をはじめ農作物の耕作、果樹の栽培、家畜の増殖など植民政策の効果はあがり独立国家の観をしめすほどになりました。

## 独 立

一八一一年五月十四日パラグアイ州民は独立を宣言し、一八一三年十月一日召集された憲法制定議会は国旗を採用するとともに、フランスアおよびエルヘスの二人の執政官を任命しました。その後一八四四年三月大統領制となり、フランスアの甥カルロス・アントニオ・ローベスが最初の大統領に選ばれました。

## 三国戦争、チャコ戦争

一八六二年ローベスの死後その子のソラノ・ローベスが大統領に就任しましたが、ブラジル、アルゼンチンおよびウルグアイの三国を相手として五年にわたって戦い、敗れました。この戦争でパラグアイは莫大な数にのぼる人を失なった上、戦前の五〇年間に蓄積された国富はことごとく失なわれ国力はすっかり衰えてしまいました。現在パラグアイ国が南米の諸国の中でも余りふるわない立場にあるのは、この戦争が最大の原因であるといわれております。

一八七〇年に新憲法が制定されましたが、一八八七年以来自由党、国民共和党が対立し、革命は慢性化し、二十世紀以降わずか四十年余りの間に二九回も大統領がかわりました。

パラグアイは、西北部のチャコ地方の国境問題で一八七〇年以来ボリビアとしばしば争いま

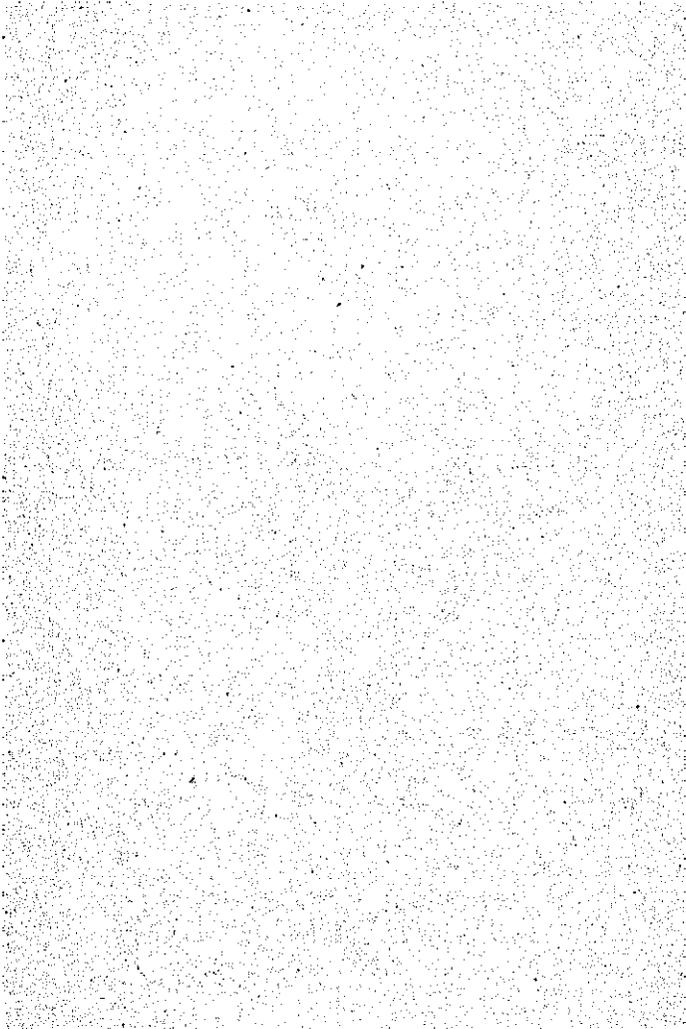
したが、とくに一九三二年のチャコ戦争は三カ年におよびました。一九三五年、米國はか五カ國の調停により停戦し一九三八年七月内滿解決しましたが、これによりパラグアイの国力は一層衰えました。

その後、軍部、自由党、革新党の間に政權をめぐる政争が絶えず、政局は不安定な状態が続いていましたが、一九五四年八月十五日現大統領アルフレッド・ストロエスネル氏が就任し現在にいたっております。

### 現在の政情

國体は民主共和国で、大統領は当然國民投票によって決定され、その任期は四年となつています。現在政權の座についているのはストロエスネル大統領のひきいるコロラド党（赤党）で反対党は俗に青党と呼ばれますが、その力は余り強くはありません。それでも青党は現政府から政權を奪いかえすため地下にもぐって種々画策をめぐらしているようですが、その実現は困難を伴うようです。南米における革命騒動という日本人々々は國內が戦雲で覆われてしまうと考えるようですが、実際は、日本の政權の交替のようなものですから一般國民が危険にさらされるなどという心配はありません。



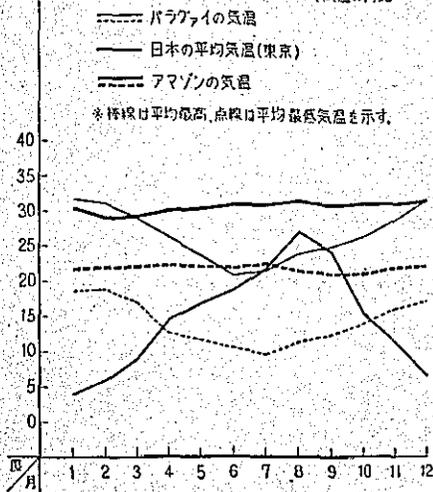


Ⅲ  
テール・ロッシュヤ、  
パラグアイの自然



## 気 候

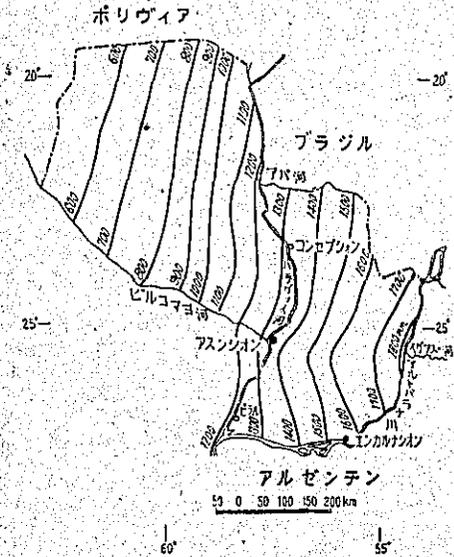
パラグアイ国(エンカルナシオン市)の気温 (アマゾン、日本との  
気温の対比)



パラグアイの気候は、一般に亜熱帯性とされていますが、海から遠く離れている内陸国の特性として夏季(一、二、三月)の温度は相当なものです。特にアスンシオンの街の日中温度は四十度を超えることも珍らしくなく、照り返して夜の十二時を過ぎなければ寝られないことも

あります。しかし移住地では原始林や植物被覆が多いため気温はやわらげられ、暑くて夜眠れないというようなことはありません。冬季(七、八、九月)は、最南端のエンカルナシオンあたりでは夜間に戸外のバケツの水が二、三回僅かに表面が凍る程度であり、日中は日本の晩春のように極めて快適な気候です。パラグアイでは空気の湿度が少なく、乾いているので夏でも温度計の目盛が示すほどの暑さは感じません。日本人移住者の中

パラグアイの年平均雨量図



で、日本にいた時はぜん息で苦しんでいた数人の人達もパラグアイへ行つてからはケロリとなおつてよろこんでおります。また昔胸部疾患で悩んだ人もありますが、パラグアイでは丸々と肥つて経営の中心となつて働いている例もありますから気候で心配することはありません。雨量は地方によって相当大きなひらきがありますが、西方にいくにしたがつて少なく、東方に進むにつれて多くなります。このため西方は草原をなしていますが東方は原始林地帯となつて

います。エンカルナシオンでは年間約千六百ミリで夏が比較的乾季となるのが特徴です。

雨の降り方はスコール性で、ザーンと降つては止むというのが多いのですが、一日位降り続くこともあります。

雨と関連して一つ困つた問題があります。パラグアイでは未だ殆んど道路が舗装されていないので、テラ・ロシヤ地

帯では一雨降ると路面はベタ／＼になります。このため未舗装の国道の車の交通は警察命令で一切ストップしてしまいます。場合によっては数日間停止されることがあり、この間は人、馬だけしか通行できませんので移住地へ物を運ぶばあい、又は生産物を出荷するのに非常に困る場合があることです。しかし、最近ではパラグアイ政府も道路の舗装工事に力を入れていきますから、近い将来にはこのような不便も解消されることと思われれます。

パラグアイには、日本の台風のように定期的な暴風はありませんが、エンカルナシオンでは地形の関係からか突風（瞬間的にふく強風）が起こることがあります。古い話では今から二十数年前にエンカルナシオンを襲った大突風は市中の建物の殆んど全部の屋根を吹き飛ばし、当時建設中であつたサンパンをこわして大被害を与えた記録がありますが、最近はこのような被害をうけた話はききません。突風の際はその後で大雨を伴うのが普通です。主な風向きは地方によつて違いますが、夏は北風（暖風）、冬は南風（寒風）が多いようです。

## 土 壤

パラグアイ、とくに今度日本人が入植する東南部の土は、ブラジルのパラナ州、アルゼンチンのミシオネス州に続くいわゆる「テラ・ロッシヤ」地帯であります。このテラ・ロッシヤ（赤土の意）は熱帯に多くみられるラテライト（紅土或いは赭土）の一種で、母岩の輝緑岩

が強い風化をうけてきたもので作物栽培上、非常にめぐまれた土ということができません。ブラジルでもこの「テラ・ロッサ」地帯を追ってコーヒー栽培が奥地へ、奥地へと伸びていったことはよく知られている通りです。唯、テラ・ロッサの特徴として乾けばコチコチでほこりが立ち、また一雨ふればベタベタになって交通上いろいろ不便な点はありますが、農耕上とくに永年性作物栽培上の利点は、これを十分にカバーしているといえることができます。肥沃といっても、永續きのする農業を考えた場合、豊科作物などのカバーグロップ（被覆作物）を作付体系の中に入れて、土壌の有機質を保持し、またエロージョン（土壌侵蝕）を防止することも忘れてはなりません。この点、このたび日本商社がパラグアイの日本人移住者から大豆を輸入することがきまり、これまで非常によくできるにもかかわらず現地で全く需要がないため移住者が僅かに自家用としてしか作っていなかった大豆を本格的に作付できるようにしたことは、移住者にとって大きな福音といえることができます。

## 動物

大きな獣では、昔は南米ヒョウ（ピューマ）、ワニなどもいたようですが、現在は全くみられず、たまたみ鹿がみられる程度です。原始林の中には大、小の山猫、イタチ、テン等がいますが人影をみればあわて、逃げてしまいます。これらの動物は夜間放しがいしている鶏をねらって

くることがあり、鶏を飼う場合は寝小舎を造り、犬を飼っておけば被害をまぬかれることができます。

毒蛇は、原始林中にはおりません。カスカベル（鈴へび又はガラガラへび）、ジャララカ（長さ一米余）などがあり、いずれも猛毒ですが、毒へびの特性として日中はとぐろをまいていてだけで夜間に活動するのです。伐木のために入山する場合はよく下を注意しながら歩くことが必要ですが、もしいた場合は山刀或いは木の枝でなぐりつければたやすく殺すことができます。これを家にもち帰ってたき火でコンガリとよく焼いて粉ひき器で粉末にし、茶罐に保存しておいて味噌汁の中に入れて味の素の代わりに使うのもオツなものです。また茶さじで一日一杯のめば（二杯のむと鼻血がでるほど効きます）強力な強壯剤となるので毒蛇をみつけるのを楽しみにしているむきもあるようです。

南米の土人のなかにはガラガラへびの尾つぼの鳴器をもっていれば獣害をさけられるといういい伝えもあります。余談はさておき、開拓にあたって注意しさえすれば噛まれる心配はまずないのです。しかし、万一噛まれた場合は出来るだけ早く解毒血清を注射することが必要です。

鳥はさまざまなのがおります。珍らしいものでは駝鳥（だちょう）が僅かながら残っており、現存しているインディオは、この羽根で羽ボークをつくって街へ売りに来ます。原始林中

には緑色で、背の高さ一尺ばかりのオームが群をなしています。これは野ねずみと同様成熟後とうもろこし（マリス）を食い荒して困る場合があります。これを防ぐにはマリスが十分に成熟した後、実の下から幹を折り曲げておけばオームも、ねずみもどういわけか食い荒しません。また折り曲げておくと乾燥も完全になると共に畑にその儘にしておくことによつて倉庫もいらす、誰が考えたかは知りませんが、まったく一石三鳥の方法といえましょう。このオームはつかまえて慣らし愛玩用にもなりますし、肉は余りうまいとはいえませんがたべられず。

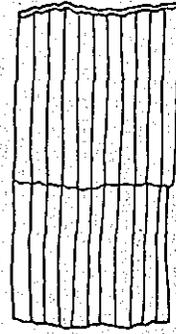
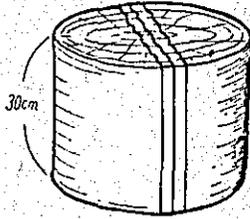
日常生活で困るのは蚊、小さいブヨの類で、安眠のためには蚊帳が必要です。その他農作物の害虫として蟻がいますが、気候の関係からブラジルで話にきくような被害はありません。数年前いなどの大群の来襲があり（コルメナ移住地）農作物が大被害をうけたこともあります。が農薬の急速に進歩した現在では害虫についての心配は非常に少なくなったといえます。

魚は、パラナ河およびパラグアイ河の河中には魚類は豊富です。中には長さ一米に達するものもあり、日本人はこれを刺身にして賞味しています。肉食魚のピラニアもいますが、人間に害をおよぼしたという話ありません。移住地内の小流には、うなぎがあるので、時には「かば焼き」に舌つつみをうつこともできます。

## 植 物

パラグアイは熱帯、亜熱帯にまたがっており、又、降雨の量も、前に述べたとおり東南部と西北部では相当な差があるので、植物相は地域によって大きな変異をみせています。東南部は大体テーラ・ロッシヤの原始林地帯で樹種は極めて多種多様、中には有用なものも少なくありません。西北部のチャコ地方は比較的乾燥した草原地帯で灌木林、椰子が点在します。中央部のパラグアイ河や沼地周辺は独特の植物相を示し、ケブラーチョなども主にこの地帯で産します。これらの多様な植物について一々学問的にのべるのはこの本の目的ではありませんので、ここではパラグアイの住民の生活に結びついている二、三の植物について述べることにしましょう。

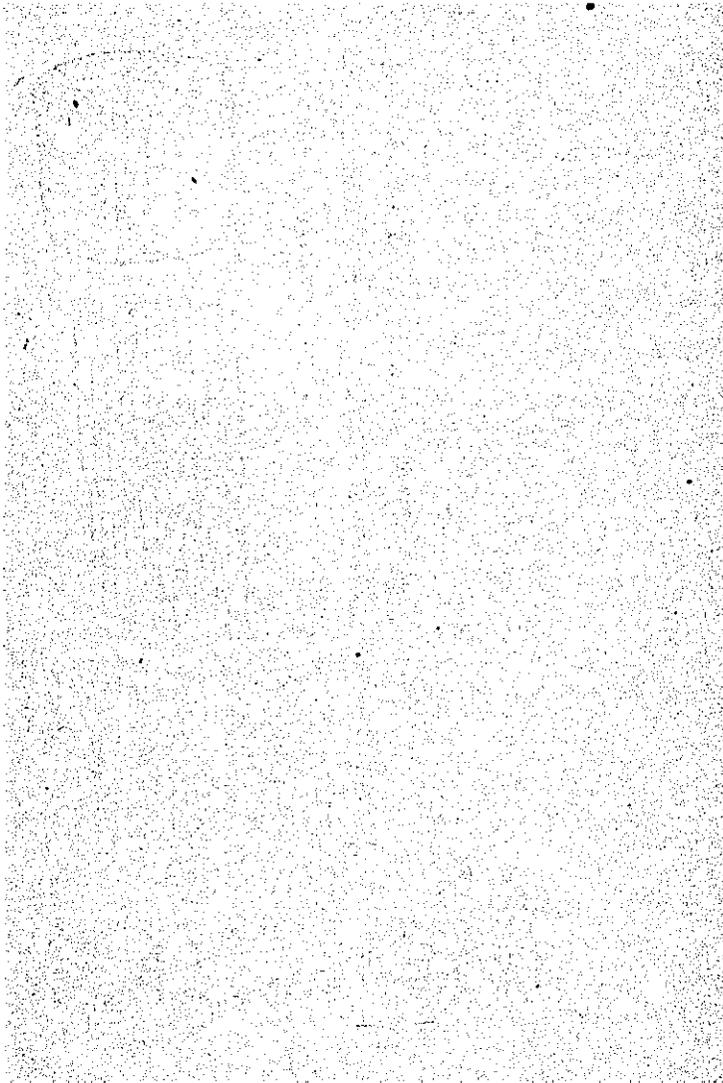
チンポー、原始林にはチンポーという幹が直径五〇〜六〇cmの大木があります。この木は移住者が入植した際、住居の屋根をふくのに広く用いられる木で、大変重宝なものです。まず幹を三〇cm位の長さに輪切りにし、これを刃わたりの長いなたで一、五cm位の厚さに割っていきます。たてにバカッ、バカッと割れ易い性質をもっていますから仕事は簡単です。又、割り口がなまこ板のように溝がついていますから、チンポーのままですいた屋根は水はけがよく、雨水がもることがありません。又、材質が堅く永持ちいたします。移住者にとってチンポーのま



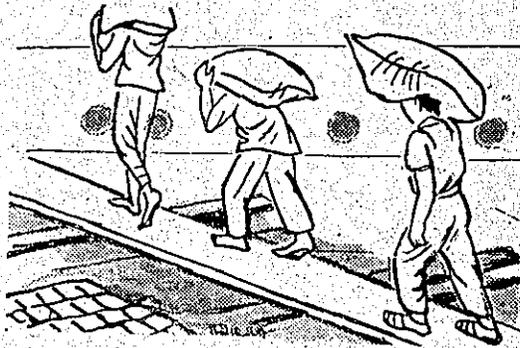
さは、全くチンボー・さま、さま  
といえましょう。

ラバーチヨ、春になると、原始  
林をわけ入る移住者の眼に一きわ  
鮮やかに映つる桃色の花を咲かせ  
る大木が、ラバーチヨです。故國

を離れた移住者には春のラバーチヨの花は桜のように懐しい気がします。街の公園にも植えら  
れて国民に親しまれ、その花は日本の桜花と同じくバラグアイの象徴のようになっていきます。  
又ラバーチヨは硬質木なので、高級家具材としても珍重されます。



IV  
牛車と  
ジェット機  
と

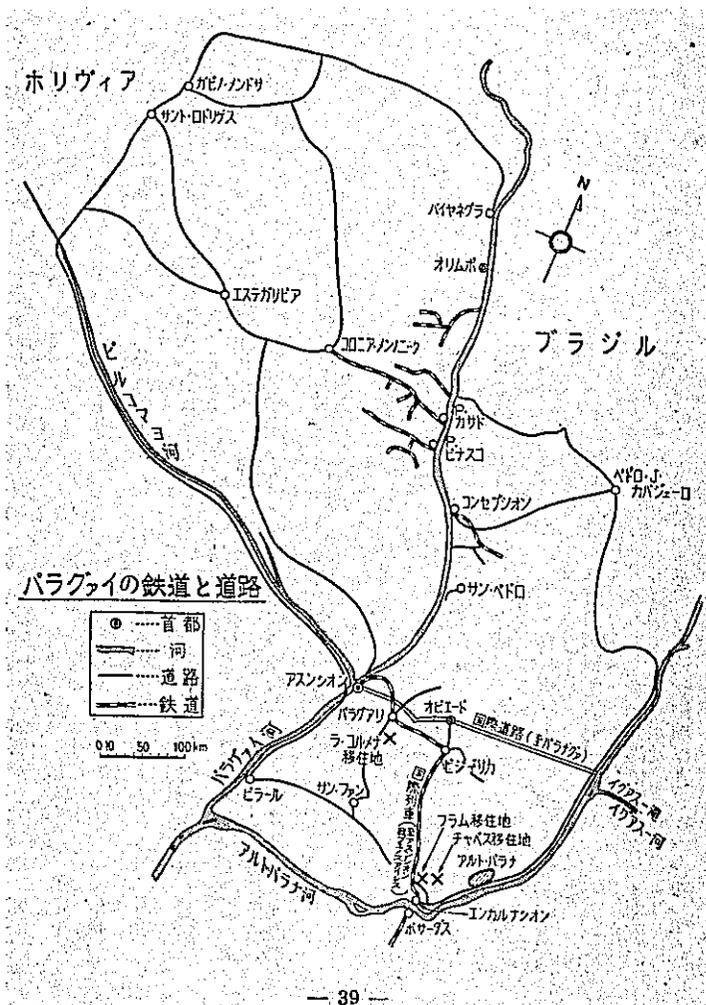


## 鉄 道、 道 路

### パラグアイの鉄道

鉄道は今から約一〇〇年前（一八五四年）に英国系資本で建設されたパラグアイアン・セントラル鉄道があります。これはアスンシオン市からエンカルナシオン市間を結ぶ長さ約四〇〇キロの広軌鉄道で、途中ビジャリカ市を經由します。この鉄道は日本のように軌道に砂利をしいたものではなく、草原地帯に一応の道床を造り、この上に枕木を並べてレールを通じたもので、現在ではその間に草が生えてまるで芝生の中に鉄路がついているようにみえます。パラグアイを旅行した或る人が列車の窓から首を出したところが、熱くて仕方がない。変だなと思つてフト下をみると線路の下草がボウボウと燃えていた、という話がありますが、いかにもパラグアイらしいのんびりした話です。週に一回アスンシオンとブエノス・アイレスを結ぶ国際列車があります。この列車はエンカルナシオンとポサーダス間のパラナ河をフェリー・ボート（わたし船）でわたり、ブエノスまで三日かかります。国際列車の他アスンシオンとエンカルナシオンまでは週二回便があります。ただし、アスンシオンから約二〇〇キロ弱のビジャリカ、その手前のパラグアリ間の運航回数はずっと多くなっています。

パラグアイの汽車の等級は一等と二等にわかれています。この二等は日本の三等に当るも



ので、座席（バンコ）は木製です。機関車が引っぱる車輛の数もせいぜい六、七輛位、利用者が多いので相当混雑するのが普通です。アスンシオン／＼エンカルナシオン間の所要時間は時間表では七／＼八時間となつていますが、実際には約十五時間はかかります。というのは鉄道が老朽のため、時には脱線の恐れがあるのでノロ／＼走るためですが、乗客も少々遅れても文句もいわず、ゆう／＼たるものです。このパラグアイアン・セントラル鉄道は今でも英国系資本で運営されていますが、経営状態は必ずしも良いとはいえず、パラグアイ国政府も買上げをためらっているように見受けられます。この他の鉄道としては殆んど見るべきものはなく、北西部のパラグアイ河流域の各所にケブラーチャ運材用の軌道があるに過ぎません。

#### パラグアイの道路

このような内陸運輸面の遅れを改善するために現在パラグアイでは大規模な国道開発計画が着々と実施されつつあります。その代表的なものは前にも述べたアスンシオンとブラジルの大西洋沿岸のパラグアとを結ぶ国際道路の建設ですが、その他、アスンシオンを中心として北西部国境地帯はコンセプションを経由してペドロ・ホアン・カバデューロに通ずる道路、南東部では同じくアスンシオンからビジャリカ経由オエナウ方面に通ずる道路などがつくられつつあります。最近のニュースによるとパラグアイ政府は、アスンシオン郊外でパラグアイ河に沿った地帯（約六万平方米）の排水工事をして、三十五米巾の道路を縦横に通じ都市を建設する

ことと、アスンシオンを中心とする悪路三百軒米の舗装を日本の力でやってもらいたいと申入れをおこなっており日本から土木建設関係の専門家の調査団が近く派遣される模様です。このようにパラグアイ政府も交通、運輸については大きな熱意をもって改善に努力していますから、近い将来にはパラグアイ名物の悪路も劃期的に改善され、従来の馬車、牛車（六頭と八頭立てのものもある）によっていたパラグアイ農村の交通も次第にトラックやバスなどにおきかえられていくことになるでしょう。

バス便が大分発達してきたとはいえ、そのバスも地方ではトラックに屋根と木製の腰かけをうちつけた頑丈、簡素なものが多く、これを利用する場合はテーラ・ロッシヤの土けむりで体中が真赤になるのを覚悟しなければならぬ状態です。このような環境にくじけず、将来日本人移住地から生産物を満載したトラックや窓がエア・タイト（ほこりの入らない）式になっているモダンなバスが都市に向かって疾駆するさまを心にえがきながら着実に開拓に努力していくような人、こういう人こそパラグアイ移住地に適した人といえましょう。

## 船 便

アスンシオン市には河用船ならば排水量二千トン程度の船を同時に三〜四隻つなげる岸壁があります。航洋型の船ならば、一〇〇トン級が航行できるものの最大限です。

アルトパラナ河流域、パラグアイ河流域では河床の関係もあり五〇〇トン以下の船でなければ航行は不可能です。

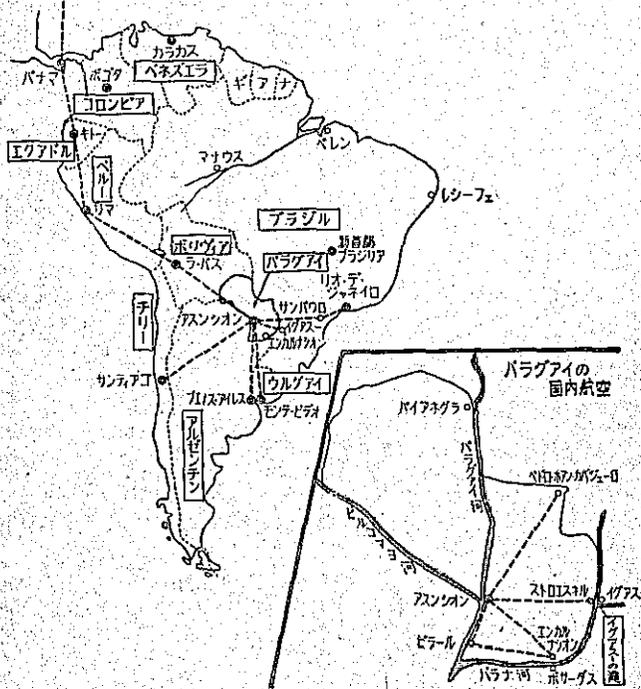
パラグアイ国は、保有している船舶の数が極めて少なく、前に述べたように物資の輸送は殆んどがアルゼンチンの船舶会社によっており、年間数百万ドルを支払っていましたが、この度の日本よりの造船借款によって、前述の問題は完全に解消できることになりました。

## 国内航空

パラグアイ国の国内航空は、軍航空運輸会社 (Cia Transporte aeromilitar) によって運営されており、その操縦士は全部軍服を着用した航空将校です。現在の空路はアスンシオン〜ペドロ・ホアン・カパチェーロ、アスンシオン〜ピラル〜エンカルナシオンがそれぞれ週三回あります。この他近くアスンシオンからストロエスネル (ブラジルとの国境イグアス滝の国内側) の空路が開設される予定です。使用されている飛行機はダグラス DC 三型ですが、その他、単発の軽飛行機も空軍によって管理されており、これらは一般の要望に応じて「空のタクシー」として利用されています。

## 国際航空

パラグアイの国際航空



パラグアイ国と外国を結ぶ国際空路としては、水上艇によるアスンシオンとブエノスアイレス間が週六回運航されている他、エンカルナシオンとの対岸のアルゼンチン領内のポサードスからも日曜以外週六回ブエノスアイレス行き定期便があります。その他、北米とリマとラパスと

アスンシオン～ブエノス・アイレス間の往復便が週二回、ウルグアイ系航空会社のモンテ・ビデオ～アスンシオン往復が週二回、アスンシオン～サンパウロ直行便、アスンシオン～イグアス～サンパウロ、アスンシオン～ポインタポラン～マッドグロソン～サンパウロ行の各便がブラジル系航空会社によって各々週二回運行されています。

最近にはブラグアイにもジェット旅客機が発着するようになり、航空の面は国外、国内とも年とともに発展しつつあります。

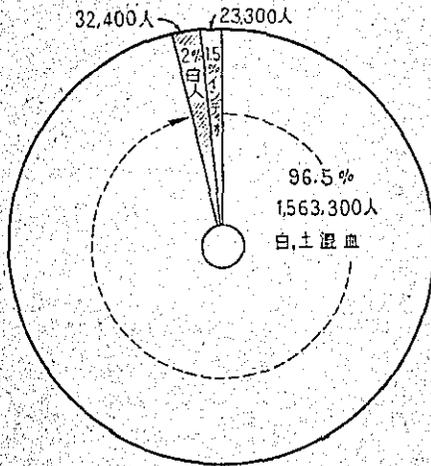
V

“アスタ・マニャーナ”

バラグアイの生活



パラグアイ國の人口とイの構成人種  
(全人口 1,619千人)



※. パラグアイの人口は約162万人で、その96.5%が上の  
図の通り、原住民ガラニー族とスペイン人との混血で、純  
粋の白人はスペイン人、ドイツ人等移住者である。  
純粋のインディオ(ガラニー族)はたった23,300人ほどである。

たので、急速に混血化が進みました。ガラニー族については人種分類学上はつきりした定説はないようですが、幼児に「蒙古班」があることや容ぼうなどの点からモンゴリア系ではないかという説が強いようです。純粹のインディオは少数です

住 民

パラグアイ人は、その歴史が物語っているように大多数がスペイン系白人とアメリカ・インディアンの二種族のガラニー族の混血です。すなわち、征服以前にはガラニー族が住んでいましたが、その後スペイン人の植民がはじまり、彼らは白人女性をほとんどもなっていないかっ

が今でも残っておりインディオと呼ばれ政府の保護の下に一般のバラグアイ人とは別の社会をつくっています。バラグアイはブラジルと異なってアフリカから黒人奴隷を輸入しなかったので黒人の血はまったくありません。そのためか、一般のバラグアイ人は背の高さも日本人と同じ位で髪、目も黒色でよくにいて、そそっかしい人はバラグアイ人に日本語で話かけたりする失敗をすることがある位です。スペイン系の他に白人としてはイタリヤ人、白系ロシア人、ポーランド人、アルゼンチン人、ドイツ人などの移住者およびその子孫がいますがその数は多くはありません。しかし一般に白人およびそれに近いものが指導階級を形成しています。

バラグアイの公用語はスペイン語で少数のインディオをのぞいた全バラグアイ人はスペイン語を話すことができます。一方ガラニ語も地方農民の間では広く話されています。

### 「楽しむために働く」バラグアイ人

バラグアイは気候、風土に恵まれて、生活がし易い環境にあるためか、一般農民の生活は極めてのんびりしています。一般の日本人の農民のようにあくせく身をすりへらして働くようなことはなく、あくまでも楽しむために働くのです。

ごく普通にみられるバラグアイ人農民の生活を眺めてみましょう。家は木造の粗末な堀立小舎で、その周囲一〜二ヘクタール位を焼いてマリス、マンジョカ、ポロット(うづら豆の一種)

を植えて必要な食糧を得る他、豚、にわとりを家の囲りに放し飼いにし、それから肉や卵をとり、余れば売って現金収入を得ます。この他、小規模の牛の放牧を行なっているのが普通です。仕事があれば日傭い、又は山林伐採などの仕事に従事して賃銀を得、衣料品などを買います。このように、パラグアイ農民は将来のことを考えて汗水流して努力するという型(タイプ)ではなく、日本人の眼から見れば一見、向上心や積極性がとほしく思われます。が、決して怠け者ではなく、一度おのをふるって大木にいどめば日本人も足もとに及ばぬスピードで切り倒してしまう力もっていますから、パラグアイに入植する日本人移住者は大抵は山伐りをこれらの人々に手伝ってもらうのです。

### お祭り と 食事

ラテン系民族が唄や踊りやお祭り騒ぎが好きなのは共通する特性ですが、パラグアイ人もこの例にもれません。日曜日や祭日には近隣の人がより合つてギターを奏で踊ったり唄ったりして楽しめます。いろいろあるお祭りの中で一番賑やかなのは何といっても二月のカルナバル(カーニバル)で、三日三晩ぶつとおして浮かれ騒ぎ、一年間はたらいで貯めたお金を全部費つても悔のないようなバカ騒ぎをします。この日にはカンニヤ(ラム酒)やビートノ(ぶどう酒)を体に引火するのではないかと心配になるほど飲みます。しかし条軌を逸した行動をしな

いには感心させられます。また、奥地では牛や豚を殺しても屠殺条例といったしち面倒良いことはなく、勝手につぶすことができるので、肉も飽きるほど食べることができます。

最近では米食率もずいぶん増してきましたが、パラグアイの食生活の中でマンジョカは大きな比重をもっています。マンジョカの皮をむき、長さ一〇cm位に切つてゆでてテーブルの真中の大皿にもりあげます。各人の手前には肉類を入れた皿をおき、マンジョカを食べる時は皿にとらず、テーブルかけの上にとつて食べるのが農村の風習です。食べ方も極めて無造作ですが、最近は大分改善されているようです。

## 果 物

原始林の中には天然の甘いナランハ（オレンジ）のほかアペプー（橙々の一種）、バナナ、マンゴ、パイナップル、アバカテ（アボカド）など豊富にあり、野菜の栽培が不得手なパラグアイ人もビタミンCを十分とるのにかきません。アペプーは日本人移住者が豆腐をつくる際にこの汁をニガリの代わりにつかっています。又、放牧牛には時々塩をなめさせなければいけません。原始林からアペプーをとつて与えると塩の代用になるという便利なものです。アバカテというのは青や紫色の皮をもち、果肉が緑色の洋梨状をした果物で、やわらかく非常に美味です。これをすりつぶしレモン汁、砂糖を加えて冷蔵庫に入れておくと天然の植物性ア

イヌクリームとなります。これは強壯剤にもなるというのでよろこばれます。果物の中では柑橘類が一部組織的に栽培されているだけで、殆んどが自然採取に近い状態です。ナランハでも大多数は家の周囲に生えている。二、三本のナランハの木からもいで、それをかごに入れ街へ出て売っているのはよくみかける風景です。

### マテ茶の廻し呑み

パラグアイの国民飲料とも呼べるものにマテ茶があります。これはジェルバという木の葉を蒸し、乾燥して細かくしたものです。飲み方は日本のお茶のみ方とは一寸違います。先ず、茶をマテというナスビ型のフクベの中に入れ、熱い湯を注ぎ、それからボンビリーヤという吸管で吸って飲むのです。お客が来た場合には日本のお茶席でお茶を出すようにマテ茶を廻し飲みすることがお客をもてなす礼儀になっています。マテ茶の廻し飲みの場合、廻された人は前の人の使った吸管（ボンビリーヤ）の吸い口をふかないことが礼儀とされています。

夏にはお湯の代わりに水または氷水を入れて飲みますが、これはテレレといえます。又、コシードといって紅茶式に土びんにいれてだして紅茶コップ又は湯呑みで飲むこともあります。日本人移住者ももっぱらこの方法で飲んでいきます。

## パラグアイのドイツ系人

パラグアイで特異な地位をしめているのはドイツ系人です。彼らは現在三、四千家族に達すると思われます。彼らの先祖は今から七、八〇年前ブラジルのサンタ・カタリーナ州から移動してきた人達といわれています。これらの人達はサンタ・カタリーナから牛車に食糧を積み、南西へ行進を続け、その食糧がなくなる前に適当な地をみつけて原始林を伐さい、耕作し、収穫し、又それを積んで行進をおこすということを繰り返し、とうとう国境のパラナ河をいかだで押し渡り、エンカルナシオンより約五〇キロの上流地点に安住の地を見出しました。現在のオエナウ、オブリガードは彼らによって建設された町です。現在はこれらの町までエンカルナシオンから国道が通っており自動車で約一時間で行けますが、その当時は、一帯は原始林でおゝわれており道らしい道もなく、エンカルナシオンに出るには一週間もかかったそうです。

彼らは入植すると先ずマンジョカなどの自給食糧を植え、豚、牛を飼って柴糞をとり自給体勢をととのえました。又、牧畜を採り入れているほかツング（油桐）、ジェルバ（マテ茶）などの永年作物を計画的に植え、加工、販売することも忘れませんでした。特にツング製油工場は、二、三十年前に母国のドイツから製油関係の機械を輸入し、協同組合の形式で運営して、その製品はヨーロッパに輸出しているなど、ドイツ人の性格をよく現わした経済活動を進めて

おります。彼らは現在はオエナウを中心として市街地をつくり、それ程規模は大きくはないが、飲料、製材、製米、製粉などの工場も持っています。住宅もガッチリした本格的なレンガ造りで、農村においても文化生活を楽しみながら働いているありさまは、せつからで生活の環境をかまわず、がむしゃらに働く日本人移住者にとっていろいろ学ぶべきことが多いようです。現大統領のストロエスネル氏は、これらのドイツ系人の後えい（二世）であります。

彼らドイツ系パラグアイ人はパラグアイを祖国として、完全にパラグアイ人として生活していますが、子弟の教育にも非常に熱心で外国語として母国語の教育も忘れていません。そのため、ドイツ系三世ですらスペイン語のほかにドイツ語を話すことができます。

### パラグアイの宗教

宗教は、他のラテン・アメリカ諸国と同様ローマン・カトリックが広く国民に滲透しています。今から約四百年前ジェスイット派の僧侶がパラグアイに入り現住民の教化と産業の振興をはかり、その治績は大いにあげられました。しかしスペイン植民は、以前のように現住民を奴隷として使用できなくなつたのでこれを恨み、スペイン王へ種々中傷したためジェスイット派は遂にパラグアイ（当時のリオ・デ・ラ・プラタ領）より王命によって追放されてしまいました。ジェスイット派の名残りは現在は遺跡となつて残っています。現アルゼンチン領のミッソ

ーネス（伝道の意）、バラグアイのイタブア県トリニダット（三位一体 神、神の子、聖霊の意）、及びヘスゥ（イエス・キリストの意）に僧院の遺跡がありますが、その規模の大きなことは全く驚くべきもので、いずれも規模は約三町歩位あり、一尺角、長さ三尺位の石材を加工して積みあげた石造建築です。とくに中央礼拝堂とみられる広間はドーム型（円屋根）で壁面の彫刻や石材の組あわせには目をみはるものがあります。これらの大伽藍は河や谷をへだてた高台にあり、一朝ことある場合はのろしでお互いに連らくしていたといわれています。伽藍の中には礼拝はもちろん、そのほか宿泊、教育、作業などの区画があり、構造からみて外敵防衛に対しても相当の措置をこうじていたこともうかがわれます。又、非常の際の脱出路として脱け穴が造られていたといういい伝えもあり、宝物が埋まっているというので盗掘する附近住民も時々あるようです。現在では周壁及びドームの一部を残しているだけで、生いしげる草の中に昔の夢をとどめているに過ぎませんが、工具、器材などのとほしい当時にこれだけのものを建設した彼らの能力と努力にはおどろかすにはいられません。

現在のバラグアイ人は日曜日には教会のミサに参ることを慣らわしとしています。道で葬列に会った場合など全然縁故のない人であっても立ちどまって帽子をとり冥福を祈ることも忘れません。このように宗教心が国民に深くしみていますので政府もカトリック神父に対しては敬意をはらっていますが他面カトリック神父が政治をある程度批判しても、これに制約を加える

ことができないという悩みもまぬかれないうです。

とに角宗教心が深いということからみても、まことに親しみ易い国民ということができました。

## 教 育

小学校、中学校、高等学校、師範学校、商業学校、農学校などのほか、首都アスンシオンには大学があります。

パラグアイの学校教育で目立つことは、ナショナリズム（国家主義）の意識が強く、国または国旗の尊敬などは小学生のうちから十分に教えこまれていることです。といっても、自国の良さが良い、という偏狭なものではなく、国際人としての教養もしっかり教えこむという面では、むしろ現在の日本の教育よりも進んでいるように思われます。

普通、生徒は制服（白い上っぱり）を着て学校に通います。都市では独立記念日などの祝祭日によく生徒の行進（パレード）が行なわれますが、その際は男子は詰めえりの制服を着用します。

大学は法科、医科その他の学部が一応揃っています。が、医科の場合などはパラグアイの大学を卒業してから、アルゼンチンあるいは北米、ヨーロッパの大学で更に研究したのち開業す

るのが普通のようなです。

学校の授業は一般に午前、午後、夜の三部授業で、給料の余り高くない学校の先生も、三回かけもちすれば、一カ月三、〇〇〇ガラニーの三倍、約九、〇〇〇ガラニー位の収入を得ることができます。

農村には先生は余り行きたくないはいずこも同じですが、日本人移住地では宿舍の他、食料まで提供しているので、先生もよるこんで赴任します。

移住地の小学校ではバラグアイ人の子供と共学ですが、日本人の子弟は素直でよく勉強するので、先生方にも大いに評判がいいようです。現在行なわれている教育方法は、バラグアイ政府の選んだ教科書（勿論スペイン語でかかれています）によって実施されています。

移住したばかりのうちには、言葉がわからないので、日本の小学校の一年生も六年生も皆バラグアイ小学校の一年生からやり直すことになりました。しかし、言葉が段々わかるようになれば、一年間のうちに特進も認められ、成績がよければ一年間で六年の課程を修了することにもなります。

現在チャベス、フラム地区の移住地の教育施設は全部で八校あり、フラム地区の一本は近い将来に中学校（或いは農学校）に昇格させることを前提として、海協連の補助で他の小学校よりも大きくて、しかも完備した校舎を建設してあります。

日本人移住者は教育については非常に熱心で、現地語（スペイン語）による学校のほか外国語教育として日本語学校を設けるのが普通です。

ブラグアイでは中学校以上の卒業者に対しては、そのものが兵役年令に達した場合、軍隊の幹部候補生としての教育をうけ、少尉に任官できる特典があります。

移住者の子弟でも、その能力と父兄の資力しだいで更に上級の学校に進学することは全く自由です。将来は日本人移住地でそだった子供達の中から、ブラグアイの経済界、政界（一世ならば帰化しなければなりません）が、文化界へもどんどん伸びていくものが出ることを期待したいものです。

### ブラグアイ人気質

ブラグアイ人は容貌なども随分日本人といたところがあり親しみ易い国民ですが、その気質にもいろいろ共通したところがあります。今から約九〇年前ブラグアイはウルグアイ、アルゼンチン、ブラジルの三国を相手に戦争を始め、数年にわたって国土に残るのは老人と女、子供になる位まで戦ったこと、又三十年前ポリビアを相手に戦い、当時未だ戦車をもっていなかったブラグアイ国が、肉弾でポリビア戦車を分捕り大いにブラグアイ軍人の意気を示したことで全く日本人の気質にたもがあります。

他方、日本人がアメリカやイギリスなど世界の強國を相手に戦い結果においては敗れたといえ、一時は列強のきも冷やしたことに對してパラグアイが大いに親近感をもつことによつても、彼らの民族氣質の一面がうかがわれます。

のんきで生活を楽しむということは前に述べましたが、パラグアイ人の性格は極めて樂天的、どこかの町や村でお祭りがあるときくと馬を連れかねて遠路も遠しとしないで出かけていきます。場合によっては数日位かかるところでもボンチョ（四角な毛布の真中に穴をあけて、そこから顔を出す。外とうにも寝具にもなる。）をかぶり馬にのつてノコノコ出かけることなどなにも苦勞とは思っていません。

パラグアイ人には、人を一度信用したらとことんまで信用する面があり、「友情が法律に優先する」といわれる位です。コルメナ移住地の日本人のお医者さんのところなどは遠くからも訪れるパラグアイ人患者が多く、門前は馬市かと思われる程です。

一般國民は國や社会の秩序を守ることには極めて嚴格で、国土に恵まれ人口が少ないとはいへ強盜殺人などの凶悪な犯罪はあまりききません。又、酔っぱらい天國といわれる日本と違って、酒をのんで泥酔して街をふらついてなどいようなものなら警官につかまりこっぴどくやられます。日本の明治時代の警官を思わせるような嚴格な巡查ぶりです。それだけに社会秩序を亂すような行ないは自然につつまれていなのです。他人の葬列にあつた場合、縁故のない人

あつても立どまらつて眞窟を祈る行ないも忘れなく、まことに親しむべき国民性をもつていていえましよう。しかしラテン・アメリカ人の通性として悪気はないのですが「アスタ・マニャーナ」（明日までと約束しても、約束が仲々まもられないこと）の習性があるのも、のんきな氣質のなせるわざでしうか。

## 衛 生

氣候風土に恵まれているのでとり立てて心配すべき病氣はないといつてよいのですが、地方農民で食生活に無関心なものの中には胸部疾患が若干見られます。かつてはマラリアが猛威を振るつた時代もありましたが、現在は医薬も進歩し殆んど心配の種とはなつていません。

アミールバ赤痢及び十二指腸虫なども全くないとはいえませんが、環境に慣れぬ間は生水を飲まないことと、食生活に注意を払えばまず病氣になることはありません。

要するに、パラグアイではとくに恐ろしい風土病はありません。唯注意しなければならぬことは開拓の際にケガをしないよう気をつけることです。特に伐木には十分気をつけることが必要です。

又、開拓作業は非常に体力を消耗しますから、日本式の淡白な食事では体がもちません。油をたっぷりつかつた現地式の食事をできるだけとり入れるよう心がければ病魔におかされる心

配はほとんどないといえまじょう。

しかし何といつても医療の問題は移住地では重大なことから、海協連では昨年十二月にフラム地区の専門医として野口徹博士を委嘱し赴任していただきました。同氏は軍医および船医として経験豊かな仁で「パラグアイの日本人移住者の皆さんにできるかぎり奉仕したい」と語っています。これまではケガをしたり病気になるったりした場合、エンカルナシオンのパラグアイ人医師のところまでジープで運んでいましたが、野口博士の赴任でこの悩みも解決されました。

## 水

首都アスンシオンにおいても、従来は屋根に降る天水を樋（とい）で地下タンクに導き、飲用やその他の用水として利用していました。従って夏の乾燥がはなはだしい時期には用水不足に悩まされ、全市中数個所の掘抜き井戸（パイプを五〇〜六〇米打ちこんだもの）をもった水屋のご厄介にならざるを得ませんでした。一九五九年（昭和三十四年）夏にアスンシオン市に水道も完成し豊富なパラグアイ河の水を利用できることになったので、大いに便利になりました。

地方では、全部掘抜き井戸から用水を得ています。チャベス、フラムの日本人移住地などで

は、ところによっては二〇米位掘らなければならぬところもありますが、地区内のところどころに清水の湧きでているところがあって、小さい流れをつくっているのも、これを飲用水やその他の用水としています。このような水源地帯は非常に大事ですから、原始林を伐開する場合でも水源林は残すようにしなければなりません。なお、自然の湧水は堀抜き井戸の水よりも清冽でしかも水質が良いのが普通です。

### 下 水 道、便 所

パラグアイでは首府アスンシオンでも下水道はありません。上流階級及び都市中心部の人達の便所は水洗式でも穴をほって流し込む方式をとっています。都市周辺及び地方では堀抜き井戸式の便所です。一杯になったら次の穴をほり、前の穴を埋めてしまいます。ここで注意しなければならぬのはパラグアイにかぎらず欧米の国々は絶対に人糞を肥料としてつかうことはなく、万一誰かがつかったことがわかれば、その人の作物は勿論のこと他の人の作物まで買う人が無くなって大迷惑をおよぼすことになります。これは理屈ではなく慣習の違いですから、お互いによく気をつけることが必要です。

さて、このように下水道がないので、大雨が降ると市中は大変です。特に首都のアスンシオンのように丘陵地の多い市街地では、雨水は坂の上から低地に奔流となって流れてきます。と

くに一番よく雨の降る季節には、市中の低地の水深が三〇厘を超える場合もあり、電車、自動車も立往生、市民は靴を脱ぎ、ズボンやスカートをまくり上げて通行しているさまは正に敵前上陸を思わせる程です。目抜き街の街路がアスファルト舗装になっている他はまだまだ石だたみの街路が多いので、雨水と一緒に土砂も流れ下り低地の電車のレールを埋めてしまいます。雨がやんでから人夫を総動員して土砂の除去作業を行なっているさまはパラグアイでは年中行事のようなものです。市中の泥水はパラグアイ河にのぞむ断崖から大瀑布となってパラグアイ河へ落下する光景はまことに壯観(?)ですが、アスンシオンがこうですから、エンカルナシオンやその他の中小都市の状態もおして知るべしです。

## 燃 料、電 気

パラグアイは石炭を産出せず、家庭用ガスはアスンシオンにおいてもありません。炊事用の燃料は上、中流家庭では石油ころろ、木炭が用いられ、農村では、もっぱら林の中から集めてきた薪をつかっています。ですから移住地では燃料費はただといえます。

電気は中都市以上にはあります。発電機はディーゼル、或いは薪を燃料とする蒸気機関によって運転されていますが、需要の増加に追いつけない悩みをもっているようです。なお電車が通っているのは首都のアスンシオンだけです。

## 文化、娯楽、スポーツ

ラジオはかなり普及していますが、テレビは未だありません。映画は、国内では年に数本の劇映画と月に四本位製作されている国内ニュースに過ぎません。一般に上映される映画は主として米國、メキシコ及びアルゼンチンの製作によるものです。

パラグアイ人もラテン系民族の特性として歌や踊りが好きで、日曜や祭日にはギターなどを鳴らして歌ったり踊ったりしているのんびりした光景があちこちで見られます。しかし、娯楽施設の面になると首府のアスンシオンは別として、余り整備されているとはいえず、パラグアイの第二の都市とされているエンカルナシオンにおいても、常設映画館が二つあるに過ぎません。これらの映画館は日曜、祭日のほかは夜間に一回上映するだけですが、娯楽が少ないためその利用価値は非常に大きいのです。

おもしろいことに土曜、日曜は普通の日の入場料より約三割高であるにもかかわらず、観客はかえって多く、おのおの着かざって集まることです。これは社交機関が少ないために映画館がその役割を兼ねているためようです。

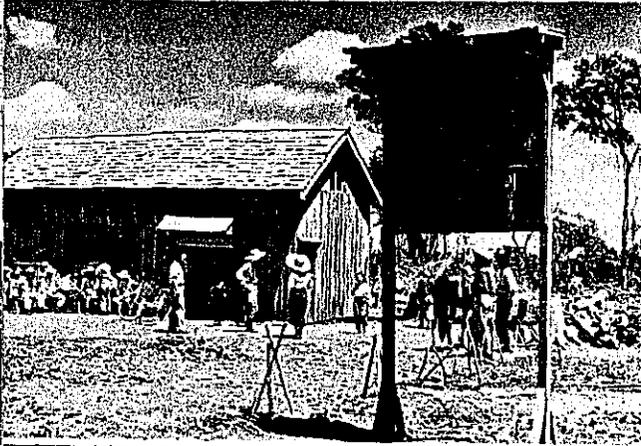
首都アスンシオンでは欧米の芸術家がときには来演することがありますが、地方の中小都市ではそのような機会は殆んどありません。

ラグビーで行なわれるスポーツ中、アソシエーション・フットボールは國技として非常に盛んで、農村にもよく普及しています。代表チームは世界的にみても、強豪五指の中に入る実力をもっているようです。最近テニス、ピンポン、ボクシング、水泳なども次第に盛んになり、首府にはスポーツクラブもあります。野球は全く行なわれておらず、僅かに日本人移住者の中でリーグ戦などが行なわれている程度です。戦前からの日本人移住地コルメナでは野球は仲々盛んで、立派なグラウンドが建設されており、現在四チームがあります。これらのチームは年に数回はアスンシオンの米国人チームと親善試合を行なったりして楽しんでいきます。





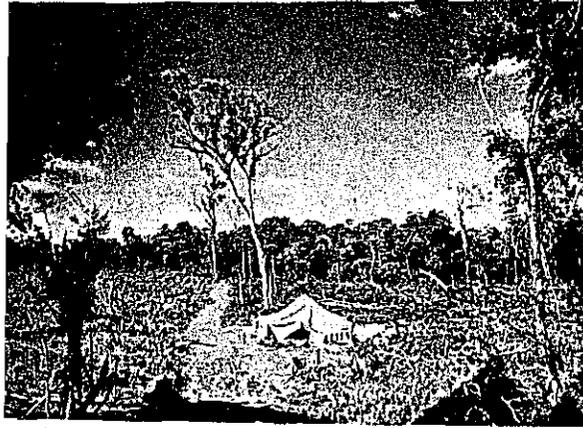
サンタローサ農協事務所前



今日は富士農協の集まり



富士農協事務所



(写真) 入植直後の天幕生活



(写真) 伐木作業



(写真) マイヌ(マヌス)の種子を



(写真) フラム移住地の小麦収穫

(写真) 山焼き



移住者の食事(写真)



(写真上) 活躍する大正号(トヨタジープ)  
日本製ジープのパラグアイ進出第一号



(写真上) 現地人相手のアルマセン(小売店)



(写真上) 板小屋の建築

パイナップルもよくとれる(写真)



VI  
コルメナからアルト・パラナまで  
— 日本人入植の経過 —



## パラグアイ移住の始まり

パラグアイ国に日本人が入植したのはラ・コルメナ移住地が最初です。一九三六年（昭和十一年）に入植が開始され、明年は二十五周年を迎えるのですが、同移住地は、この間、「草分け」の苦勞をなめ、その上、転耕問題、第二次世界大戦、蝗群の来襲、パラグアイ国内の数次の政変などの難問題にぶつからなければなりません。戦後パラグアイにはチャベス移住地、フラム移住地、アルト・パラナ（アカカラヂヤ、ピラポー、カレンデイ）移住地など次々と新しい移住地が建設され、多くの日本人移住者が入植していますが、これが可能となったのも、コルメナに入植し同コロニアをパラグアイのモデル農村にまでにした人達の努力をパラグアイの政府や国民がよく認めたからであるといってもよいのです。この意義を十分に理解するために、ここでパラグアイの日本人移住者の足跡をふりかえってみましょう。

パラグアイに日本人が入るようになったそもそものキッカケは、一九三三年（昭和八年）ブラジル国で起った二分制限の実施です。当時ブラジルに住む日系人は約十五万といわれ、年々その勢力をましていました。ブラジルでは、一部の排日的な人たちによって、日本人が同国へなじまない民族であるとか、日本が侵略主義的である等を口実として、日系人排斥に傾いていました。その結果出来たのが二分制限法といって差支えないでしょう。この法律は、ブラジ

ル国への入国者数を、今後「現にブラジル国に在住している各国人の総数の二パーセント、すなわち二分に当たる人数だけ年々入国を許可し、他はすべて入国を禁止する」法律です。もちろん、この法律の適用はすべての在住外国人に課せられたのですが、主目的が日本人の入国阻止にあったことは明らかです。この法律によって、日本人の年々の入国許可数は僅か二千八百人に制限されてしまいました。

このブラジル国の二分制限によって、日本政府は、他の何れかの国へ新移住地を求めなければならなくなりました。そこで白羽の矢をたてたのがパラグアイ国であり、その移住地がラ・コルメナだったのです。

#### 戦前のコルメナ移住地

一九三四年（昭和九年）七月、ブラ拓※専務の宮坂国人氏の調査報告にもとづき、関係者がコルメナの最初の実地踏査を行いました。

（※ ブラ拓とは海外移住組合連合会（現在の海協連に相当するもの）のブラジルでの出先機関、ブラジル拓植組合の略称）

翌年、再調査を行なった上、パラグアイ政府から日本人百家族を入植させる許可をとり、パ

ラ拓事務所をアスンシオンに開設し移住者受入れの本格的準備にとりかかりました。この間政変などがあつて関係者の苦勞は並大抵のものではありませんでしたが、とにかく、ブラジルよりの指導移住者を最初に、日本からも一九三六年（昭和十一年）第一回十一家族、第二回十五家族と引きつづいてコルメナへ入植するようになったのです。日本からは一九四一年（昭和十六年）まで二八回、毎回数家族づつが入植しコルメナにも、小学校、煉瓦工場、綿織工場、製材工場などが建設され次第に移住地のていさいは整つてきました。しかし、一九三七年（昭和十二年）にパラグアイで数十年來未曾有の降雹があつたことや、また入植當時の苦勞に負けて、ブラジルやアルゼンチンへ転耕していくものも少なくありませんでした。

當時、日本と米國との關係は日ましに悪化の一途をたどり、一方一九四一年（昭和十六年）の七月には日本の同盟國のドイツがソ連と交戦状態に入りました。この重苦しい緊張した空氣はコルメナ移住地にもただよい、移住者達は寄り合つては遠い祖國日本のことを語り合い、偲びあうのでした。なおこの年には七月に第二十七回移住者四家族二十八名、九月には第二十八回移住者九家族五十四名が入植しましたが、この人達の乗船した大阪商船のブエノス・アイレス丸は、パナマ運河通過禁止のため、南米最南端のマガリヤネス（マゼラン）海峡を迂回しなければなりませんでした。こうして十二月八日には、日・米英の戦争開始となつたのです。

## 戦時のコルメナ移住地

日本がパール・ハーバーを攻撃し米英と交戦状態に入つたのが十二月八日、翌年一月リオ・デ・ジャネイロで米國を主唱者とする汎米會議が開催されました。この會議の結果、アルゼンチンとチリーは中立を宣言しましたが、かんじんのパラグアイ國はブラジル同様、日独伊樞軸國に対し國交断絶の挙に出ました。コルメナ移住地では、今後事態がどんな方向へ進展していくのか全く見当がつかず、不安な日々をおくるのでした。移住地には、監督官が任命され、日本から赴任していた折務省の駐在員、小学校々長夫妻も日本へ引き揚げなければならなくなりました。また同國における日本人の權益よう護の立場にあるスペイン公使からはコルメナ移住地の日本人の組織する一切の公共団体は解散するのがよからう、という命令的な注意が与えられました。こういう空気のなかで、コルメナ移住地の日本人は、祖國日本の勝利を願って、祖國への献金運動を展開し、アルゼンチン領事館にいらいして、軍資金一〇六、二二三ペソを献金する手続きをとりました。一九四三年（昭和十八年）六月の山本五十六元帥の國葬には小学校で時局講演会を聞くなど祖國を想う実情をひれきしたのでした。しかし、一九四五年（昭和二十年）八月十五日とうとう日本はポツダム宣言を受入れ無条件降伏をしたのですが、この知らせをうけたコルメナ移住地の全日本人の失望はたとえようもありませんでした。戦時中はひそ

かにラジオで日本よりの放送をきき、大本営発表は間違いないもの、連合国側の発表はデマと固く信じていたことは当時の日本人の大多数とまったく同様で、日本が敗けた、との報で全くぼうぜん自失の状態におち入ってしまった。移住者達は、たよるものもなくなると黙々として土をたがやすはかなかったのであります。隣国ブラジルでは邦人間に臣道連盟の騒動、すなわち日本の敗戦を信じない勝組が、日本の敗戦を認める負組に対して暴力を振るうような事件がありました。パラグアイではこのようなことは起こりませんでした。

ここで言い落としてならないことは、戦時中といってもパラグアイの一般国民は日本人の移住者に対して、他の一部の国でみられたような敵意をしめすことなどは全くなく、むしろ好意をもってとり扱ってくれたということです。もちろん或る程度の干渉はありましたが、それはパラグアイ国の本當の意志というよりも、米州機構の一員として義理を立てるためにおこなったといってもよいと思われまゝ。このパラグアイ国民の寛容な取り扱いは、私達が忘れてはならないことです。

#### 戦後のコルメナ移住地

日本の敗戦によって一時は呆然自失の状態にあったコルメナ移住地も、時のたつにしたがつて打撃から次第に回復してきました。移住地の中に総合運動場が完成し、入植十周年の記念を

かねて野球大会や運動会が行なわれるようになり、又コルメナ体育協会が発足して移住地の明朗化はまずスポーツから進められていきました。日本からの手紙も見られるようになり、ブラジルからは同国内で発行されている邦字紙が初めて到着しましたが、永らく邦字の印刷物から遠ざかっていたコルメナの人々にとって、この喜びはとて言葉ではいえない程大きなものでした。

一九四八年（昭和二十三年）の七月には大統領（臨時）が内相その他高官連四十六名をひきつれ移住地を正式に訪問しました。同年には又、国立銀行総裁臨時の下にコルメナ農業協同組合の創立総会が開きされ、移住地も産業、経済的に大きく動きだしました。翌年にはコルメナに飛行場が完成するなどいろいろのことがありますが、その後の発展については、コルメナの恩人といわれる宮坂國人氏（現南米銀行創立者）がコルメナ移住地二十周年祭にまねかれた時の感想をブラジルの邦字新聞にのせていますが、コルメナ移住地の状況をよく伝えていきます。

「私が最初パラグアイへ行ったのは一九三二年（昭和七年）だったが、次の一九三六年（昭和十一年）に行ったとき、首都アスンシオンから東南一三〇キロの地点に一万町歩の土地を買収し、そこをラ・コルメナと名付け、移住地をつくって最初の移住者を入植させた。現在では日系農家一二〇家族、七百人が住んでいる。一九五六年の五月十五日から入植二十周年に当るのでその記念祭に私も招待されて出掛けて行った。移住地の生産物としては、綿、米、タバ

コ、とうもろこし、豆類、それに永年作物としてブドウがあり、そのブドウで美味しいブドウ酒をつくっている。地元のパラグアイ人はよく働き、正直であるので、日本人と仲がよい。だからラ・コルメナが中心となってあの地方一帯が大いに開け、中央市街地も出来て、パラグアイ人もだんだん集まり、今では人口三千三百人ほどになっている。移住地内の施設としては、小学校(日・ベ児童が九百人いる)、中学校、コルメナ会館(公会堂)、産業組合事務所、同ブドウ酒醸造工場、同織綿工場、同精粉工場、パラグアイ国立銀行出張所、警察署などがある。

現在では国内でだれ知らぬものがないほど有名になっていて、手紙などは、ラ・コルメナ、パラグアイと書いただけで世界中からチャンと届くほどだ。又、男女青年団や四つの野球チームなどもある。中央の五百人収容可能な公会堂(コルメナ会館)で移住地の人達は、いろいろな相談ごとや催し物をして生活を楽しんでいる。ラ・コルメナの土地はとくに良いとは言えないが、いままでも二十年間肥料を使わなくてもよかったようだ。しかし、最近では生産物増産のために肥料を使うようになった。

パラグアイは住み心地の良い国である。それは現大統領ストロエスネル將軍はじめ官民が日本に好意をもっていてくれるからだ。一九五五年將軍がラ・コルメナを訪問したとき、移住地側では運動会をやったが、將軍は移住地の日本人と一緒にあって嫁取り競争で走ったりするほど気軽でよい人だ。その次の年、コルメナ移住地の女子青年団二十数名が大統領が移住地へ来



(写真上) コルメナの葡萄園

(写真右) コルメナ移住地の邦人住宅  
これから葡萄つみに出かけるところ

(写真下) コルメナ農業協同組合

(写真下) コルメナの小学生



られたときの答礼かたがたアスンシオン市の見物に出かけ、大統領をお訪ねしたとき、將軍は係りの役人をつけて、女子青年団を自動車で市内見物させ、その上軍用機でアスンシオン市を上空から見物させてくれた。大統領だけでなく一般パラグアイ人も日本人が好きで親愛の情を示してくれる。

氣候は快適でブラジル、サンパウロ州の南部地方と同じだ。ラ・コルメナの夜空は美しい。南十字星が仰げば真上に見え、北斗七星も同時にみえる。ラ・コルメナは低い山に囲まれた盆地なので、家のベランダに坐つて空を眺めていれば、ちょうどプラネタリウムをのぞいているようだ。パラグアイ人がヴィオロンにあわせて歌う「ラ・ノーチェ・パラグアイ」を聞いていると僕のような年寄りでもロマンチックになるよ。盆地をとり巻く低い山の一つに日本の富士山によく似た山があって、移住地の人達はそれをコルメナ富士と呼んで郷愁を感じているようだった。ラ・コルメナで製造しているブドウ酒は美味しいので、アルゼンチンまで輸出しているが、赤ブドウ酒にはコルメニータ（コルメナ娘）、白ブドウ酒にはハポネントタ（日本娘）というマークが入っている。嬉しいじゃないか。とにかく、この国の政府はパラグアイのためにつくす人を大いに歓迎している。」

### チャベス、フラムの伸展

戦後のブラグアイ移住は、前にも述べた当時のブラ拓責任者の宮坂国入氏が、昭和二十六年ブラグアイにおもむいた際、ブラグアイ政府よりホルメナ移住地の拡充を前提とする一二〇家族の邦人農業移住者の入国許可をとりつけたことに始まります。これに基づいて昭和二十九年よりブラグアイ移住が再開したのですが、既にホルメナはほぼ満植の状態にあり、日本からの一二〇戸を全部ホルメナに入植させることは不可能でした。そこで五、六家族はホルメナで受入れることとして、その他の移住者は当時ブラグアイ政府が建設中であったイタプア県チャベス植民地へ入植させる許可を受けました。このようにして、エンカルナシオン市を中心とする日本人の入植が始まったのです。当時、邦人の受入れについては何らの受入れ機関がなかったのに、宮坂氏の主唱により日・パ拓植組合が設立され移住者の受入れと今後の世話にあたることになりました。(註、昭和三十二年四月より海協運支部が設立され、日・パ拓植組合に代わって現地受入機関となった。)こうしてチャベス地区には九五家族、六三四人の移住者が入植し、又、ホルメナ移住地から分家転住する人も出てきました。こえて昭和三十一年、海外移住振興株式会社がチャベス地区の奥のフラム土地会社の所有地約一万四千ヘクタールを購入し移住地を造成することになり、又、自営開拓農としてこの地に入植する数も新たに四〇〇家族の枠をブラグアイ政府から受けたので、その後ブラグアイ移住はもっぱらこのフラム地区に対して行なわれました。昭和三十三年になって更に約九〇〇ヘクタールを購入しフラム地区移住地

チ+ベス、フラム地区入籍状況（昭和34年6月調べ）

組合名 年 度	チ + ベ ス		富 士		サンタ・ロサ		ラ・パ ス		合 計	
	戸 数	人 員	戸 数	人 員	戸 数	人 員	戸 数	人 員	戸 数	人 員
昭和 29 年度	28	184	—	—	—	—	—	—	28	184
" 30 "	61	413	22	140	—	—	—	—	83	553
" 31 "	1	9	49	321	21	137	29	192	100	659
" 32 "	2	12	32	208	54	371	39	243	127	834
" 33 "	1	5	21	122	39	226	44	258	105	611
" 34 "	2	11	9	63	10	68	3	23	24	165
合 計	95	634	133	854	124	802	115	716	467	3,006

はぐっと大きくなりましたが、現在まで約五〇〇家族、三千五百人が入植し、ここもほぼ一杯の状態を示すようになってきました。

この地区について特に述べておきたいことは、昭和三十一年広島県沼隈町及びそれに続く高知県大正町の分町的な集団移住が行なわれたことです。町ぐるみ移住は従来個人の個人、個人の入植よりも一歩進んだいき方を示すものとして各方面の注目をあびました。

チャベス、フラム地区の土壌は極めて肥沃なテラ・ロッシュヤ（赤土）地帯で、入植者の営農生活も、開拓当初のマイス（とうもろこし）などの短期作物から、永年作物のポメロ（ズレーブ・フルーツ）、油桐、マテ茶などの植付け、大小家畜の導入へと着実に安定への途を進んでいます。とくに注目されるのは同地域には各地区毎に農協が結成されていましたが、昨年二月これらの協同組合は集まってイタプア県農協連をつくり、同年十月正式に財団法人としてパラグアイ国の承認をえたことです。このイタプア県農協連はパラグアイの産業組合史上最初の連合体できわめて大きな意義をもっているということができましよう。同農協連はとくに国外市場を対象とする移住地の生産物の共同販売事業に、活発な活動を行なっております。昨年七月山脇イタプア県農協連理事（元高知県大正町助役）の一時帰国を機に日本商社との間に大豆を日本へ輸出する話もまとまりましたが、移住先でおこる個々で解決の難かしい問題を協同組織の上手な運営で解決するいき方は、今後の対南米開拓移住にとっていろいろ参考になる点

が多いようです。

### カフエ耕地

パラグアイ国の東北部、ブラジルと道路をへだてて境を接しているところにペドロ・ホン・カバチエーロの町（人口約八、〇〇〇人）があります。この町からトラックで約二〇分のところにアメリカ人の経営するコーヒー園があり、昭和三十一年度と三十三年度にかけて一三七家族九〇七人の邦人移住者がコロノ（契約農）として入植しました。

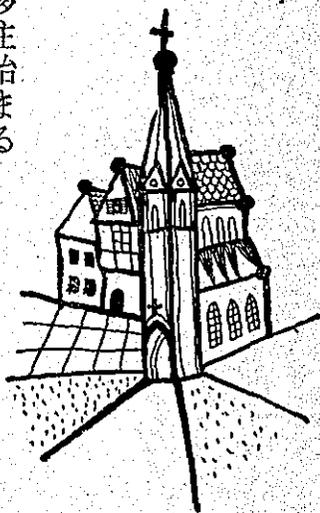
パラグアイでは従来コーヒーを生産しなかつたので、コーヒー園産の目的でアメリカの開発会社とその生産と経営にのりだしたのですが、パラグアイ人コロノは必ずしも能率が良いとはいえず、又、会社側では、ブラジルの各地で日本人がコーヒー栽培に示した能力を高く評価したので、日本人移住者が入植することになったものです。

しかし、会社の現地支配人がコーヒー園経営について経験が薄かったことに加えて、標高の関係上しばしば霜害を受け、経営はうまく運びませんでした。この間数次にわたって北米において融資の途もこうじましたが、とうとう事業を縮小しなければならなくなりました。

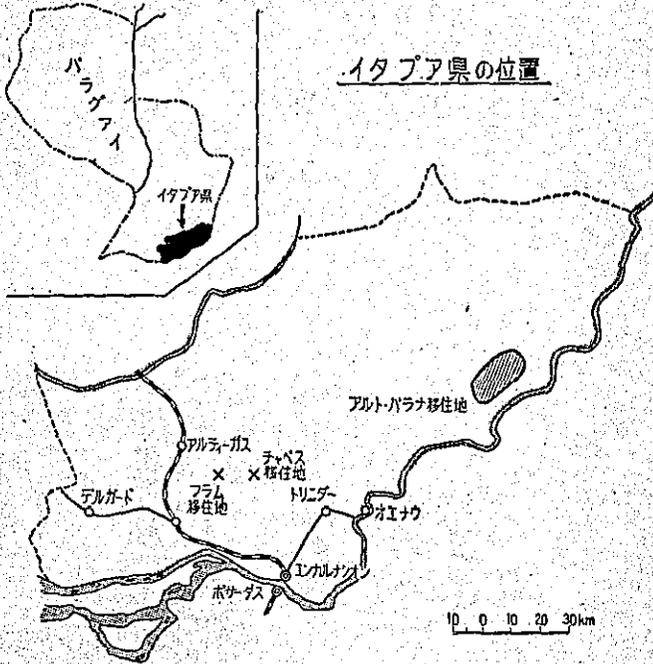
カフエ耕地に働いている邦人コロノもこういう訳でいろいろ苦労しましたが、四年間の契約期間を満了するものも多くなり、これらの人々は土質の肥沃なその附近の地帯に開拓自営農と

して入植したいという意向も多いので、目下、適地調査の段階にあります。ペドロ・ホアン・カバチエーロの南西約一五〇キロのカピタン・バード町（人口約二、五〇〇人）附近のテラ・ロッシヤの原始林地帯などが現在のところ有力な候補地になっているようです。

VII  
アルト・パラナ移住始まる



イタプア県の位置



アルトパラナは  
こういふところ

前にも述べたように、チャベス・フラム地区も一杯になり、又、日本国内においてはパラグアイ移住熱も次第にたかまってきたので、新しい移住地の造成が望まれるようになりました。したがって移住振興会社は土質がフラム地区と全く同じであるアルト・パラナ地帯を物色し、約八万五千町歩の現在のアルト・パラナ移住地を購入し確保することになり、昭和三十五

年度より五年間に二千家族をこの地区に移住させることになりました。

さて、それではこれから五年間パラグアイ移住の中心となるアルト・パラナ地区とは一体どのようなところでしょうか。

アルト・パラナ地区はイタプア県の首都エンカルナシオンよりその地区の入口まで約八〇キロ、オエナウ町からは約三〇キロ離れたところにあります。

標高は六〇〜六五米のなだらかな傾斜をもつ地帯で、ピラポー河やその他の小さい川が地区内を流れています。

土壌はいわゆるテーラ・ロッシュャとよばれる赤い肥沃な土壌で、酸度は中性ですから、当然の間は無肥料でも作ることができます。

この地域は、殆んど全地域がうっそうとした原始林に覆われており、ペローバ、セードロ、ラパーチョ、チンポー、グテンタンブーなど用材として良質なものがありません。

### 近くの町や村

#### エンカルナシオン市

イタプア県の首都でパラグアイ国第二の都会（パラナ河―河市約五軒―を狭んでアルゼンチ

ン国のボサーダス市と相對している）であり、人口約四万五千といわれています。当市はこの地帯一帶の生産物や日用品の集散地で外国商人、商社などの本拠地となっています。当市からチャベス地区を経てオエナウまで約五〇杆は国道で、更にオブリガードを通つて入植地まで約三〇杆は現在のところ私道となっています。

しかし、これもイグアスー迄の国道予定線になっています。

#### オエナウ町

入植地入口から約三〇杆の地点にあり前にも述べたようにドイツ人によつて拓かれた町です。人口は約三、〇〇〇人、附近の農産物及び日用品の集散地となっています。この町には学校、バラグアイ銀行支店、その他製材、製粉、製茶（ジェルバ）などの工場もあり、小さいながら附近の産業の中心地となっています。

#### オブリガード町

オエナウとアルト・パラナ移住地の中間にあつて、オエナウよりもやゝ小さい町です。中心部には小学校、油桐の製造工場、ジェルバ製茶工場などがあります。

#### アカカラジャール、ピラポ、カレンデイ

現在それぞれ一〇家族位が住んでいるに過ぎませんが、将来これらを合わせたアルト・パラナ移住地が拓けてくるにつれて交通の要衝となると考えられています。すなわち入植地の生産

物をエンカルナシオン、ボサーダス或いは更に遠くフェニス・アイレスなどへ多量に出荷する場合には、ここから船便による方が便利です。これらの地点では河巾は約一杆弱であり、水深もかなりあるので三〇〇屯位の船が航行できます。

#### 道 路、 橋

オエナウから移住地までの道路と入植地内の幹線道路は現在の有効巾八米(全巾員二〇米)、入植地内支線道路巾六米(全巾員一六米)の規模のものを移住振興会社が建設中です。又、橋はすべて木橋ですが、とくに主要なものについては橋台および橋脚をコンクリート構造として建築中です。これらの道路および橋の完成後は、入植者の組合に引継がれ、組合で管理することになる筈です。

#### 協同組合について

前に述べたようにアルト・パラナ地区はイタブア泉の中心地エンカルナシオンより地区の入口まで約八〇キロ、オエナウ町からは約三〇キロの距離にあります。このため生活に必要なものを買うにも、移住地をつくった生産物をはこぶにしても個人でおこなうことは容易ではありません。生産物の販売にしても個人でおこなうことは、商人の買いたたきや、お互い同志の無益な競争を招き不利をまぬがれません。

チャベス、フラム地区の例にみられるとおり、移住者は組合組織の強化によって着実に営農

の実績をあげており、パラグアイ政府も専門の部局をおいて組合組織の助長をおこなっています。又、日本国も、開拓を進めていくため施設、器材、教育、衛生などについての助成を将来ますます厚くする傾向にあり、こういう場合はすべて協同組合を通じて行なうことになるので、すから、入植者は必ず組合に加入すべきです。

### アルト・バラナの営農はこのように

アルト・バラナ新移住地の建設は移住振興会社、海協連と、移住者の組合の連合体であるイタプア農協連の三者が共同で過去の経験を生かして後続移住者のために目下急ピッチで進められています。フルトーザーによる入植前の道路開さくにも驚くばかりの進歩がみられ、現地の作業ぶりをみた人々も口をそろえて『これなら来る人も助かる』というのが現在の姿です。

さらに現地受入側では入植して来る人達のために次のような作業予定をたてて営農にとまどうことのないように至れりつくせりのお膳立てをしています(カッコ内は所要経費、一ガラニーは日本円約三元)

九月 仮小屋建設、井戸掘、小農具と山羊の購入(二二、九〇〇ガラニー)

十月 伐採(一七、二〇〇ガラニー)

十一月 山焼きと整理、大豆、ポロット、野菜等播種(三、九三〇ガラニー)

十二月 二期マリス(トイモロコシ) 陸稲播種(三、六〇〇ガラニー)

一月 家屋、倉庫の建設準備、マリス間引(一八、四〇〇ガラニー)

二月 家屋、倉庫の建設、マテ茶播種(八、二〇〇ガラニー)

三月 油桐播種用意、果樹苗手配(一一、七五〇ガラニー)

四月 大豆、ポロット収穫、小麦、野菜作付準備、玉葱播種(五、九〇〇ガラニー)

五月 小麦、野菜播種その他(三、二〇〇ガラニー)

六月 マリス収穫準備(三、二〇〇ガラニー)

七月 油桐播種、マリス収穫、豚、ニワトリ導入、マリス出荷(四、四〇〇ガラニー)

八月 綿作付準備、水稻苗作り、未作地整理、一期マリス、ヘビリヤ、野菜播種、マンシヨカ

辛植付(三、八〇〇ガラニー)

この様に入植してからの一年間の計画がすでにたてられており、この経費の合計は、一〇五、四八〇ガラニー(日本円にして約三十万円)となり、この間マリス、大豆等による収入を二七、九〇〇ガラニー(約八万三千元)と見積っています。

この中、異色である山羊の購入がありますが、これは入植と同時に確保して、この乳により栄養の補給をしようとするものです。また、自給体制の確立を第一とし米作り、家畜の飼育はマリスが収穫できてからと無駄な出費をおさえた計画をたてているのが注目されるところです。

営農について参考事項

(1) パラグアイの四季

春 九月下旬～十二月中旬まで

夏 十二月下旬～三月中旬

秋 三月下旬～六月中旬

冬 六月下旬～九月中旬

(2) 乾季及び雨季(年により一定していない)

準乾季 二月～三月まで

準雨季 四月～六月まで

中間季 七月～八月まで

雨季 九月～十月まで  
乾季 十一月～一月まで

※ 営農についての留意事項。

(1) 生活の安定を図るため自給作物の作付けを忘れずに行なうこと(マンジョカの作付け、稲作は重要である。)

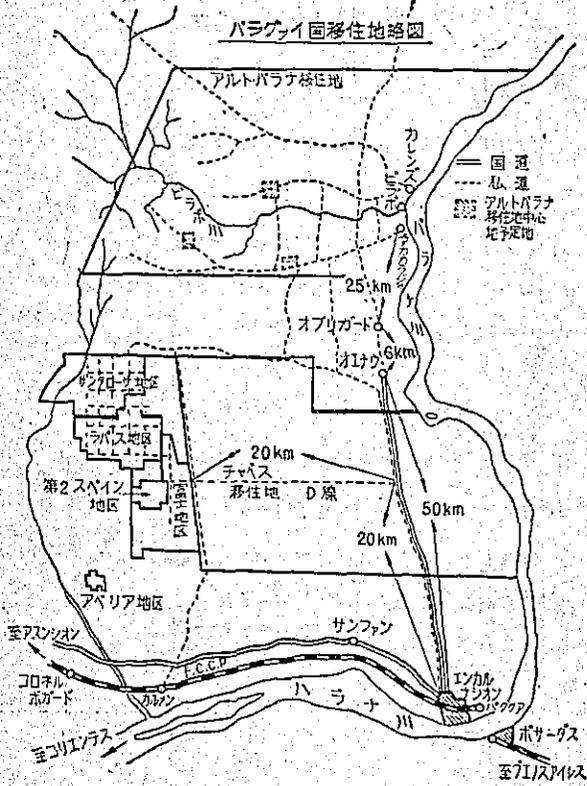
(2) 次年度の経営資金を得るため、マيس、大豆、綿花その他の作付けに全力を注ぐこと。

(3) 四～五年後の経営の安定を図るため永年作物の植付けは初年度から忘れず続行すること。

(4) その他家畜の導入、有用材の植林も時期を見て行なうこと。

(註) マイス……とうもろこし。ジェルバ……マテ茶の種類。

パラグアイ国移住地地図



パラグアイ国の作物栽培時期

作物名	主要作物播種期及び栽培期間		適 要
	最適播種期	最適収穫期	
(マيس) 玉蜀黍 (第一期)	7月中旬～9月下旬	2月中旬～3月下旬	硬質玉蜀黍こし(ベネズエラ種)
" (第二期)	12月中旬～1月下旬	5月上旬～6月中旬	品質は極めて優良である。
水陸稲	8月下旬～12月上旬	4月上旬～11月下旬	インド系である。日本の晩生種も可。
小麦	5月上旬～6月下旬	10月下旬～11月下旬	春播性抗銹病、三品種あり。
大豆	11月中旬～1月上旬	5月上旬～11月下旬	改良品種、中粒種。
綿花	11月上旬～3月下旬	9月上旬～11月下旬	ブラジル系カンピナス種。
落花生	9月下旬～11月中旬	3月中旬～4月上旬	品種は多い。
マンジョカ	7月上旬～11月下旬	5月中旬～6月下旬	三品種あり、生食用として作られている。
馬鈴薯	7月上旬～9月中旬	10月下旬～11月下旬	二品種あり、種薯は亜国より輸入。
ポメロ	5月上旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬	ザボンの種で高価である。
葡萄	4月上旬～6月下旬	12月下旬～1月下旬	醸造用、生食用、優良種あり。
マテ茶	2月上旬～8月下旬	6月上旬～7月下旬	
ユーカリ	4月上旬～5月下旬	6月上旬～7月中旬 (植付期)	
パラナ松	"	"	

※ パラグアイ国の四季は 9月下旬～12月中旬までが春。  
 12月下旬～3月中旬 " 夏。  
 3月下旬～6月中旬 " 秋。  
 6月下旬～9月中旬 " 冬である。

※ 子実作物は成熟まで5カ月。茎葉根作物は収穫まで3カ月と見ればよい。

## 資格、手続き

さて、パラグアイのアルト・パラナ地区に移住しようとする人はどのような資格が要り、又どのような手続きをしたらよいのでしょうか。

アルト・パラナ地区に対しては昭和三十五年度には二四〇家族が全国公募されます。この中第一回の三〇家族は高知県の越智町の集団移住がすでに決定しており、その他の県からも続々移住の希望者が出て、計画が進められております。

### 移住者の資格条件は次の通りです

- 一、パラグアイ国へ永住の目的で渡航するもの。
- 二、農業者又は豊富な農業経験を有する者であること。
- 三、開拓意欲が旺盛であること。
- 四、世帯の構成は一夫婦を基幹として満十二才以上六十才未満の働き手三人以上を有する世帯を優先とする。

但し、夫婦のみでも開拓能力のあるものについては考慮される。同伴者を含む場合は親族であることを原則とする。

④ 同伴者が未成年の場合は、その親権者又は後見人の渡航同意書を付すること。

五、世帯員はすべて身体強健で且つ次の疾病、肉体的欠陥及び悪癖のない者であること。

- (イ) トラコーマ
- (ロ) 伝染病
- (ハ) ライ病
- (ニ) 結核性疾患
- (ホ) ガン
- (ヘ) 感染期にある性病
- (ロ) 精神病
- (セ) 盲聾啞
- (リ) アルコール中毒
- (ス) 麻薬嗜好症
- (ル) 遺伝性疾患
- (セ) 不具廃疾
- (ケ) 労働に支障ありと認められる身体機能障害
- (コ) 慢性胃腸障害
- (ク) 腺病体質
- (ク) 酒癖

六、思想堅実で犯罪その他反社会的行為をしたことのない者。

七、昭和二十七年以降に移住対象国に移住したもので、その後帰国し、更に再渡航する者でないこと。

各都道府県には一つづつ海外協会（大ていは県内）があり移住希望者の相談に親切に応じてくれます。そこには現地よりの最新のニュースや県出身者よりの便りなどいろいろ資料が備えられていますから一度よく相談されることをおすすめします。海外協会では又、映画会、講演会、巡回移住相談などで、各地へ出向きますから、その際を利用してよく現地の事情、その他についてご質問下さい。手続き書類などは全部海外協会にそなえてあります。

合格者の決定はどのように

地方海外協会は選考委員会をひらき、適格と認めたものに順位をつけて海協連へ推せんしま

す。海協連は被推せん者について最終的に選こうを行ない適格と認められた世帯に対しては地方海外協会を通じて「合格通知書」を交付します。

合格者は、直ちに渡航手続きを行なうのですが、これについては海協連発行の「合格後の注意事項」をよく読んで間違いないようおこなって下さい。又、合格した世帯の家長には講習訓練が行なわれますが、携行する物資、たとえば農具、建築資材などの購入については、この際によくきいて準備して下さい。

### 入植条件と受入れ態勢

アルト・パラナ地区の入植条件は次の通りです。

土地は移住振興会社より分譲を受け、その面積は三〇ヘクタールをもって一区劃とします。

#### ○ 土地価格（一区劃当り）

一括払いの場合 三五万円

分括払いの場合 四五万一千円

#### ○ 支払い条件

(a) 一括払いの場合は、全額を渡航前に日本国内で移住振興会社に対して支払います。

ただし、地券は現地で引渡されます。

(b) 分割払いの場合は、一〇万円を渡航前に日本国内において移住振興会社に対して支払い、残金は四年据置き以後五カ年平均年賦払いでパラグアイ国において移住振興会社支店に対して支払います。

なお、年賦支払い金は円建てですが、支払い期日前一カ月間の平均ドル相場により換算したパラグアイ通貨ガラニーで支払うものとします。

#### 渡 航 費

渡航費は全額海協連より貸付けられます。(日本の乗船港よりブエノス・アイレス経由エンカルナシオン市までの船賃および汽車賃)

#### 携 行 資 金

アルト・パラナ地区へ入植を希望する移住者一世帯が持っていかなければならないお金は三六万六千円以上となっています。このうち現地での生活営農資金が三〇万円、必要な携行農具の分担金が六万六千円です。必要な携行農具とは動力脱穀機、中型発動機、ミスト噴霧機、脱粒機、製材機などで、何世帯で一台かを共同購入するものです。これらのものを既にもっている世帯は分担金の額は少なくすみます。

なお、右の金額(及び資材)を全部は準備できない世帯は、移住者は最低二〇万円(現金)を調達し、残額については移住振興会社の渡航前融資を活用することも考えられます。額は次

の通りとなっています。

(1) 現金融資額 一〇万円

(2) 農機具融資額 六万六千円

アルト・パラナ地区への入植条件は次の通りです。

(イ) 収容所（エンカルナシオン）

フラム移住者受入れの際に海協連が建設した収容所が、エンカルナシオンにあります。今後アルト・パラナの移住が本格化するとこれだけでは手狭まなので、新たに敷地を定め仮収容所の建設が進められています。

(ロ) 収容所（移住地内）

移住者が移住地到着前に竣工させるため目下アカカラジャ地区に、四〇坪のもの二棟が建設されています。これは満植の後には組合事務所、倉庫等に転用されます。

(ハ) 教育施設

校舎は収容所等の転用により施設し、教師はパラグアイ国側より派遣されます。

(ニ) その他の公共施設

共同販売所（三〇坪）、倉庫（五〇坪）、診療所等を移住地内に海協連が建築する予定です。なおエンカルナシオンにも倉庫の建築が予定されています。

(4) 機械、器具

三五年年度予算において、トラクター、トラック、製材機、井戸掘機、搾油機、製粉機、診療所用発電機などを海協連支部が購入し、各移住地の利用に供される予定です。

(5) 営農指導その他

現在、移住振興会社の職員が移住地内に駐在し、道路建設その他の移住地造成を行なっており、海協連職員は受入れ準備及び営農指導、その他の指導あつせんのため、移住地内に常駐することになっています。

なお近接しているフラム移住地内に海協連の試験農場があり、場長ほか職員が常駐して入植者の営農指導に当たっています。

(6) 住居

各自の耕地へ建築する住居および作業小屋等は自己負担です。

(7) 医療施設

昨年宋海協連バラグアイ支部に移住者専門の嘱託医を派遣し隣接のフラム移住地に常駐させ実費診療に当たらせていますが、アルト・バラナ移住地にも診療所設置の計画があります。

なおエンカルナシオン市(移住地より約七〇キロ)には、北米の慈善団体が運営している総合病院があり、移住者に対し無料診療を行なっています。

VIII  
結び  
パラグアイ移住の将来



## 中南米の爆発的發展

今、中南米は爆発的な勢いで發展しています。皆さんも新聞などでご承知のようにブラジルの隣国ブラジルでは今年の四月に首都をリオ・デ・ジャネイロから国土のほぼ中央のブラジリアに移しました。これまでになかった高原に世界一モダンな都市が出現したのです。

三十年前にはその殆んどが原始林でおぼわれていたサンパウロ州も、今では拓きつくされ、中心のサンパウロ市は何十階だてというビルが林立する大都会となりました。そこには日本人のつくった南米一といわれるコチア産業組合があり、又、約四〇万の日系人は同州の農業生産物の大半を生産しています。

伸びゆく中南米諸国には欧米先進国の人、技術、資本がどんどん進出し、日本からも豊和工業、石川島ブラジル造船所など企業、技術者の移住もしだいに盛んになってきました。

## 眼ざめるブラグアイ

ブラジルをはじめ海岸に面した中南米の国々の發展に比べて内陸国のブラグアイ、ポリビアなどは何か停滞しているようにみえます。

しかしブラグアイも眠っているのではなく、最近では前にも述べたブラジルの海港へ抜ける国際道路の建設、日本からの借款による商船隊の建造、米国の援助、七カ国共同市場の結成による相互貿易の拡大などブラグアイの過去の停滞を破るいくたのことがらが現われています。

今、新たにできつゝある国際道路の沿線には、各国人がどんどん入っており、この南米の真中であつて世界から今まで忘れられていたようなこれらの地域にも、発展の大きな波が押寄せつゝある現状です。

パラグアイの発展をばんできた一番大きな理由の一つは、何といつても人口が少ないこと、とくに国土を開発する農業開拓者が少ないことです。ごしう知のように日本金土より大きな面積に住んでいる人間の数は、たったの一六二万位なのです。

パラグアイ政府もこの点を考えて、活発に移住者を受入れており、昨年七月締結された三十二年間に八万五千人の移住者受入れの枠を定めている日・パ移住協定も、この具体策の一つと考えることができます。農業にかぎらず、工鉱業、サービス業などでも生産人口と消費人口が少なければ飛躍的な発展を望めないのは当然のことです。

現在パラグアイにある工業はその殆んどが外国人移住者や外国資本によって育てられたものですが、永住を基本とする先進国よりの移住者の増加はパラグアイの農業の発展に貢献するばかりでなく、新しい産業と自国の資本をつくりあげていくことになるでしょう。最近パラグアイを視察した或る人が、日本人移住者のことを「目的地へ早くつこうと思つて鈍行列車の中で駆足している乗客」に例えましたが、これからのパラグアイを過去の発展の速度からただ「鈍行列車」ときめつけてしまうのは余りにも傍観的な皮相な見方ではないでしょうか。

ブラグアイが日本人移住者に期待しているのは、移住者が「鈍行」を「急行」に加速させていく原動力の一つになることです。われわれはヨーロッパ人も足を踏み入れることをためらい「緑の地獄」と呼んだアマゾンに、ビメンタ（こしょう）、シュート（黄麻）の二大産業をづくりあげた日本人の「土性骨」をここで誇りをもって想い起こしたいものです。

#### 組織の力

しかし、忘れてならないことは現在の移住者を待ち受けているのはブラグアイの未開の原始林であり、悪路であり、狭い国内市場であります。これらを克服して発展していくためにはよほどの決心が必要です。燃えるような開拓精神のほかにお互いの協和によるガッチリした組織が必要です。

戦前に入植したコルメナの移住者達は、日本人を中心とするブラグアイの模範農村をつくっており、そこで生産される葡萄酒は国外へも輸出されてブラグアイ人の賞讃のまこととなっていますし、又、戦後移住再開後のチャベス、フラム地区移住地では、移住者達は狭い国内市場でお互いに競争する愚をさけ、各地区の協同組合の連合会を結成して、国外へ生産物を輸出しています。この法人格をもつ農業協同組合の連合体はブラグアイでは最初のもので、その意義は極めて大きいことができましよう。親目的な或るブラグアイ人が、「日本人はドイツ人が二十年かかってやったことを二年でやった」と感嘆した位ですが、もちろん、農協進も、各

協同組合も発足してから日も浅いことであり、解決しなければならぬ問題を山ほどかかえていることは申すまでもありません。しかし、協同組合主義は、パラグアイの先輩たちが多くのあやまちや失敗などを通じてつかんだ貴重な成果です。後に続く人たちは、この成果を謙虚な気持ちで受入れることが望ましいことです。このためには今後のパラグアイへ移住する人達は十分な開拓能力と意欲をもつ人であると同時に、他人とも仲よくやっつけていけるような人であつて欲しいのです。

島國根性（他人の足をひっぱること）、県人意識などは古い借金の証文と一緒に日本へおき忘れていきたいものです。

パラグアイはもはや速い國ではない

ジェット機など交通機関の発達で、世界はますます小さくなってきました。戦前は南米から何十日もかかった手紙も今では三日か四日、おそくても十日で着くようになりました。

パラグアイの日本人移住地では移住者は朝仕事に出かける前にトランジスター・ラジオで日本の音楽や放送をききます。一面に拡がっている肥えた赤土と、たまにブエノス・ディアス（オ早ウゴザイマス）と通り過ぎるパラグアイ人労働者を除けば、まるで日本のどこかの農村にいるような気持になる位です。

遠くにいるような気がしないばかりではなく、事実、世界は小さく、そしてお互いにもっとも

つと関連し依存しあうようになりました。

今年は大ラグアイの日本人のつくった大豆が日本に輸出されます。アルト・パナナ地区へ入植が進めばこの量はもっと増えることでしょう。

これまでは大ラグアイと日本との間には殆んど貿易関係がありませんでしたが、このように大ラグアイの移住者の生産物を日本に輸入し、日本から見返りに商品を出すようになれば移住者の生活を高めるばかりでなく、日本にもたらされる経済的効果も大きいというものです。こうして日本がその昔満州などで行なつた植民とは全く別の新しい公平な立場にたつた、しっかりと結びついた経済関係ができるわけです。

こういう結びつきが益々強まっていけば、今まで余り知られていなかった地球の丁度裏側の大ラグアイと日本が、丁度イギリスとカナダのように協力しあつて共に発展していくことが出来るのではないでしょうか。

今朝も、大ラグアイの日本人移住者は元気で仕事に出かけます。打ち振る斧の響きに一本、又一本と地響きをあげて大木は倒れ、新しい天地が広がっていきます。日光をうけてテーラ・ロッシュは大きく呼吸をつき始めます。

日・バ移住協定

日本国政府及びブラグアイ共和国政府は、  
両国民の間の友好関係を一層緊密にすることを希望し、及びブラグアイへの日本人の移住が両国に与える利益にかんがみ、その移住を促進することが相互の利益であることを確信し、  
次のとおり協定した。

第一 条

- 1 この協定によつてブラグアイへの入国が認められる日本人移住者（以下「日本人移住者」という。）の数は、この協定の効力発生の日から三十年の期間において、年令のいかんを問はず八万五千人（八五、〇〇〇人）とする。
- 2 日本人移住者は、三千五百人を最大限度とするほほ均等の年間割当によりブラグアイに入国するものとする。日本人移住者の基準年間割当（二、八三三―四人）の一部又は全部が送出されなかつたときは、その割当の残余は、最大限度が定められている前記の年間割当とは別に、次年度以降において使用することができる。

第二 条

- 1 この協定の目的を達成するため、日本・ブラグアイ移住混合委員会（以下「混合委員会」という。）をアスンソン市に設置する。
- 2 混合委員会は、各政府がそれぞれ三人づつ指名する六人の委員で構成される。
- 3 混合委員会の主たる目的は、この協定に基づく移住に関する五年ごとの基本計画（日本人移住者の種類、移住地及び定着の方法に関する計画を含む。）を作成すること及び日本人移住者に関する他のすべて

の問題を協議することとする。

### 第三條

日本人移住者の選考は、混合委員会が作成して阿政府が承認した基準に従い、日本国政府又はその指定する移住取扱団体が行う。ただし、パラグアイ共和国政府は、必要と認めるときは、このために任命された代表者を通じて選考に参加することができる。

### 第四條

1 パラグアイ共和国政府は、混合委員会が作成して阿政府が承認した移住に関する五年ごとの基本計画の実施のため、日本国政府又はその指定する移住取扱団体が日本人移住者の入植に必要な土地（私有地であると国有地であるとを問わない）を購入するに当り、法令の範囲内であらゆる便宜を与えるものとする。

2 購入する土地の面積は、一家族当り約五十ヘクタールとして計算する。

### 第五條

1 パラグアイ共和国政府は、日本人移住者の自家用品及び日本人移住者がその職業に応じて携行するすべての機械、器具及び用具につき、関税その他輸入品に対し課せられるすべての税金及び課徴金を免除する。

2 パラグアイ共和国政府は、さらに、日本国政府又はその指定する移住取扱団体が、パラグアイ共和国政府と事前に協議した上で、日本人移住者の使用又は移住地における使用のため、すべての機械、器具及び用具（トラクター、ブルドーザー、トラック及びジープを含む）を、第三者に販売しないという保証の下に、関税その他輸入品に対し課せられるすべての税金及び課徴金の免除を受けて自己の負担で導入することを許可する。

### 第六條

日本人移住者は、入国、居住、營業、課税、課徴金その他すべての事項に關して、第三国の移住者より不利でない待遇を与えられる。

#### 第七條

パラグアイ共和国政府は、日本人移住者に対し、同政府の技術機關を通じて耕作に必要な技術援務を与えることを約束する。

#### 第八條

パラグアイ共和国政府は、移住地内の日本人移住者のため、パラグアイ人の有資格者のいない間、日本人移住者が日本國の法令に従つて認められた資格を有するときは、それらの者が医師、齒科醫師、薬剤師、助産婦又は看護人の職業に従事することを認める。もつとも、これらの職業は、常にパラグアイ共和国の法令に従つて遂行されるものと了解される。

#### 第九條

1 この協定に基く移住により形成された日本人農業移住地は、現行の規則に従つてパラグアイ共和国の教育制度を遵守し、かつ、可能なときからスペイン語で教育を行うことを条件として、私立日本人学校を設けることができる。

2 パラグアイ共和国政府は、前記の学校に対し、教員の派遣その他の可能な援助を与えるものとする。

#### 第十條

この協定の解釈上若しくは実施上の意見の相違又は混合委員会における意見の相違は、すべて両政府間で外交上の経路を通じて解決するものとする。

#### 第十一條

この協定は、パラグアイ共和国の憲法上の規定に従つてこの協定が批准された旨の通告を外交上の経路を通じて日本國政府が受領した日に効力を生ずる。

以上の証拠として、正当に委任された日本国政府及びパラグアイ共和国政府の代表者は、この協定に署名した。

一九五九年七月 日にアスンシオン市で、ひとしく正文である日本語及びスペイン語により本書二通を作成した。

日本国政府のために

パラグアイ共和国政府のために

また、以上の移住協定と同時に成立した船舶借款に関する交換公文の要旨は次の通りである。

- (1) 借款は、パラグアイ共和国政府が日本輸出入銀行と結ぶ契約に基づいて行なわれる。
- (2) 貸付の限度額は、十三億六千八百万円（三百八十万ドル）とする。
- (3) 貸付の利率、期限等の条件その他の細目は、日本輸出入銀行とパラグアイ共和国政府との間で取り決めるが、利率は国際開発銀行の金利を基準として決定され、償還期限は十年以内とする。
- (4) 貸付は、日本国において建造される河川用貨物船（五隻）、家畜運搬船（一隻）及び無動力冷蔵運搬船（一隻）の購入に当てられることとするが、右船舶の種類及び隻数の変更についてパラグアイ共和国政府は、日本国政府と協議することができる。

## イタブア農協連定款

### 第一章 名称、管轄、存続期間

第一条 本連合会は「フェデランオン・デ・コベラテイバス・イタブア」と称し、有限責任とする。

(本連合会を本定款で単に連合会と称する)

第二条 連合会所在地をエンカルナシオン市と定め、その所属裁判所をアスンシオン裁判所とする。

第三条 連合会の存続期間は無期限とするも二十五年を第一期としこの期間終結六カ月前に存続又は解散の処置をとることが出来る。

A 連合会に加入する単位農業協同組合(本定款で単位組合と称す)が合法的解散又は脱退除名処分等により一組合となつた時は、連合会は自然解散となる。

B 連合会事業期限終結は単位組合及び連合会の義務及び権能の終了を意味し、単位組合の加名継続は自由である。

C 代議員会において連合会に加入するすべての単位組合が合法的に解散その他の方法で、「一」組合を設立又は「一」組合に統合する場合においては、第三条各項は無関係とする。この場合連合会の所有する財産及び負債を精算して剩資産ある場合においては新組合の所有となり負債ある場合も亦新組合の負債とする。

D 前項に基づいて連合会を解散して新組合を設立する場合における統合の処置は、農牧省農業協同組合課の指示を受けるものとする。

### 第二章 資本金

第四条 連合会の出資金は単位組合の出資金によるものとする。

この場合単位組合の資本金の最高限度は制限せず。

第五条 単位組合の出資金は次の要領により払込みするものとする。

A 創立又は加入と同時に一〇万ガラニーを納める。

B 単位組合の組合員が出荷する農業生産物より生ずる収入の百分の一をもつて百万ガラニーを納める。

第六条 払込み出資金の株券の額面は五万ガラニーとする。第五条B項による金額が五万ガラニーに満たない時は翌年度に持越す。

第七条 株券は連合会長及び専務理事の署名を要する。

株券は分割又は売買することが出来ない。

第八条 単位組合は申込み株金を完納する迄脱退できない。

但し単位組合が合法的に解散した場合はその出資金を返還する。

第九条 脱退した組合が連合会に負債ある場合はこの負債を精算完了した後出資金を支払うものとする。

### 第三章 事業目的

第十条 本連合会は法令第二十六条及び第二十七条の主旨にそい営利を目的とせず、単位組合の育成強化をはかり、生産加工貿易の自立経済確立を期するに必要な農業経営団体を作るをもつて設立の目的とする。

A 単位組合員の福利を増進し、社会的、経済的、文化的地位の向上をはかり共同精神の普及、宣伝、情報の蒐集、文書の刊行、機関紙の発行等を行ない定着指導を行なう。

B 協同組合の奨励普及を計り、イタプア県内の組合一致統合を期する。

第十一条 連合会は前条の設立目的を達成するため次の事業を行なう。

A 農業生産加工事業

調査、計画、統計、共同利用施設、加工工場の設立、開発建設、農業土木（植民地建設事業）。

B 農産物販売事業

C 国内販売、国外輸出。

C 購買事業

農産必需物資の購買輸入、食料の供給、単位組合への配給。

D 信用事業

預貯金、農業経営費の貸付。

E 運輸事業

トラックの集中管理、機能増大、修理工場の設置。

F 文化、厚生事業

学校、病院その他の文化厚生施設の誘致、生活改善、食生活指導、簡易宿泊所、食堂の設置、娯楽場。

第十二条 連合会は前条の事業を実施するために必要な資本の導入をはかり農業生産力を増強するとともに国内産業の振興に努力し輸出増加輸入抑制をはかり国家経済の発展に貢献するものとする。

#### 第四章 事業区域

第十三条 連合会の事業区域はバラグアイ共和国イタプア県内全域とする。

#### 第五章 構成組合

第十四条 前第十三条区域内において農牧省の設立認可を受けた農業協同組合はすべて加入できる。

第十五条 連合会への加入許可は代議員会で決定する。

第十六条 連合会設立後における単位組合の連合会加入の場合には加入申請書に次の事項を記入して定款を添え代議員会に提出し、その承認を受けなければならない。

組 合 名

組 合 所 在 地

組合設立年月日及び認可年月日

認可番号

組合員数(組合員名簿添付のこと)

出資口数

払込済出資金総額

財産目録

貸借対照表

定款第二十条の処分を受けること又は受けた場合の出資金処分について意義なきこと。

第十七条 連合会の禁止行為は次のとおりとする。

A 連合会が創立後において加入する単位組合へ出資金の義務の追加をすること。

B 特定のものに対して資金又は利益金の特別便宜又は優先権をはかること。

C 商業その他の団体としての加入。

D 宗教、人種、政治的条件を付する一切の行為。

E 宗教、政治の論議又は同目的のために資金を使用すること。

F 外来思想の宣伝を行うこと。

第十八条 連合会は二以上の単位組合が加入していなければならない。

#### 第六章 単位組合の権利及び義務

第十九条 連合会を構成するすべての単位組合は、代議員会の決議事項に対して同等の権利を有する。

第二十条 単位組合の行なう事業行為が連合会又はその他本連合会を構成する他の単位組合に対して不利

益を与える場合は、代議員会はその組合を除名処分することができる。

A 除名処分を受けた組合の出資金はその組合の負債及び組合義務金を差引き、更に損害を与えた額を

決定して損害賠償支払方を通達して之を差引くものとする。

この場合における損害額は理事会において算出し、監事会の裁定を受けた後決定するものとする。

第二十一条 前第二十条により除名された単位組合は、除名を受けた日より満一カ年を経過して理事会の承認を受けて再加入することが出来る。

この場合の加入手続は新規加入に準ずるものとする。

第二十二条 単位組合が法定解散をした場合、連合会は出資金、積立金、配当金その他を支払うものとする。

第二十三条 単位組合はその持株に対して絶対責任を有するものとする。

#### 第七章 単位組合の利益に関する事項

第二十四条 生産物加工品の販売品を連合会が取扱う場合は、理事会において単価を定め仮精算し、販売完了後諸経費を差引き精算する。

第二十五条 前第二十四条の単価を定める場合は各単位組合プール計算として均等単位とするものとする。

ただし、正当なる理由によつて差額をつけることが妥当な場合はこの限りでない。

第二十六条 年度末決算において算出した純益金は代議員会で承認を受け次のとおり処分する。

- A 10% 準備金
- B 30% 株券増加勘当金
- C 10% 株券払戻積立金
- D 50% 償却費

内訳  
85% 運輸機関  
5% 不動産  
10% 什器動産

第二十七条 前第二十六条の準備金は連合会事業の不時の損失又は法定解散組合の支払にのみ使用する資

金とする。除名組合並びに脱退組合は準備金を受ける権利を有しないものとする。単位組合が二以下となつて連合会が自然解散の場合、準備金は連合会残務精算費に充当し、残額を生じた場合の処置は、農牧省農業協同組合課の指示を請うものとする。

第二十八条 第二十六条に示す株券増加割当金は、単位組合が連合会を利用した金額に比例して増額するものとする。

ただし、年度末決算の結果利益金が少ない場合は、代議員会の決議を経てこの積立を停止することができる。

#### 第八章 株券の価値及び譲渡

第二十九条 出資金は単位組合の加入存続する限り払戻ししないものとする。

脱退組合の出資金は次の要額で払戻しする。

A 連合会の株券の価値が表記額以上の場合においても表記額どおりとする。

B 表記額以下の価値となつている場合はその実価値とする。

C 株券は譲渡出来ない。

#### 第九章 生産物の取扱い

第三十条 連合会は毎農年度事業計画を樹立して、代議員会の決議を経て単位組合へ生産指示を行なうことができる。

又連合会の必要にもついで、単位組合はその必要な生産資料統計を報告する義務を有する。

第三十一条 連合会は代議員会の決議に基づいて、単位組合の出資する生産物の依託販売に応じなければならぬ。

ただし、同一品目のものは、何れの組合のものも同一方法によらなければならない。  
その品目も亦連合会において指定する。

第三十二条 単位組合は連合会へ農業生産物を出資する義務を有し、連合会はその生産物を国内販売、輸出、加工に区分して処理しなければならない。

A 連合会は単位組合の出荷高に応じてその代金を仮精算して内渡しし、販売完了後諸経費を差引精算するものとする。

第三十三条 前第三十二条の価格、経費、手数料等は理事会で決定する。

第三十四条 連合会で取扱いする農業生産物を単位組合は他へ売渡し引渡しすることは出来ない。之に違反した単位組合に対しては、峻厳なる処分を行なうことが出来る。又単位組合の組合員にして前項に準ずるものある時は連合会はそのものの所屬する単位組合に対してこの中止方を勧告し、なお改めない場合においてはこの単位組合の責任を追及し、前項に準ずる処分を行なうことができる。

#### 第十章 会計事務

第三十五条 事務の正確を期するため、支払いは一切銀行小切手を用いるものとする。

この場合一日総額三、〇〇〇ガラニーまでは現金支払いすることが出来る。

第三十六条 連合会の全ての資金は、全額銀行預金しなければならない。

すべて連合会の発行する小切手は連合会長、専務理事、会計主任の中、二名の署名を要する。

第三十七条 すべての書類に対して連合会長及び専務理事は閲覧署名し、専務理事は書類末尾に処理の概要を記入しなければならない。

第三十八条 連合会の名において借入れする証書は、すべて連合会長、専務理事の署名を要する。

専務理事一人の署名した証書については、連合会は一切の責任を負わないものとする。

第三十九条 単位組合へ支払いした金額の領収証は、当該組合の常務理事及び係職員の署名を要する。一

件三、〇〇〇ガラニー以下の場合に係職員の署名でよい。

第四十条 連合会の単位組合に対する出荷物の代金支払要領は理事会の定めるところによる。

第十一章 帳簿

第四十一条 連合会は加入組台帳を持つ。

A 本簿には次の事項を記入する。

組合名

組合所在地

組合設立年月日及び認可年月日並びに認可番号

組合員名

申込株券口数

支払済株金高

加入年月日

組合員の永年作種別植栽面積

その他必要事項

B 本簿は二月末、八月末整理記入する。

第四十二条 各単位組台帳及び専務理事は随時第四十一条に示す加入組台帳を閲覧し、資本金高その他記載事項を少くとも年二回点検し、署名しなければならない。

第四十三条 連合会には会議出席簿を備え、代議員会、理事会、監事会に出席した場合は署名しなければならない。

第四十四条 連合会は代議員、理事会、監事会の議事を記録するため、夫々議事録を備えなければならない。

第四十五条 前各条の他、連合会の發務的に備なえる帳簿は次の通りとする。

現金出納帳  
仕訳日記帳  
銀行預金勘定帳  
其の他の補助簿

一、総勘定元帳

一、生産物販売台帳

一、購買台帳

一、貯金台帳

一、文書件名簿

第四十六条 監事会は当該事業年度決算審議のため、代議員会の召集前に収支の監査を行わなければならない。

そのために理事会は代議員会八日前に、会計に関するすべての書類を監事会に提出しなければならない。

第四十七条 連合会は単位組合が総会の承認を受けて政府へ報告する決算その他の書類を、毎年三月末日までに取纏め集計して理事会の後、報告しなければならない。

第十二章 職員に関する事項

第四十八条 連合会は必要に応じ事務又は技術職員を雇用できる。その定数、並びに給与は連合会長が理事会の決議を経て定める。この場合労働基準法に違反してはならない。

第四十九条 職員に対しては年度末において年度末賞与を支給することが出来る。

この支給額は月額固定給以上を原則とするも、決算の状況により理事会で定めた枠内で連合会長が支給額を定めることがある。

本条は専務理事及び参事に適用する。

第五十條 連合会長及び専務理事、又はその他の理事にして連合会のため特に功勞あるものについては功勞金を支給することができる。その支給額は理事会で定める。

第五十一條 職員の勤務時間は八時間とする。

時間外勤務に対して予算の範囲内で手当金を支給することが出来る。

第五十二條 職員は身分証明書、労働手帳を所持するものでなければならぬ。

A 必要に応じては職員のドクメント、労働手帳を連合会において保管する場合があるも、職員がこれを拒む時は理事会の意見によつて処置を決定するものとする。

B 職員は法令の定める所により、社会保障積立金として法定の額を差引きするものとする。

C 職員に採用されるものは二名の保証人を差入れるものとする。

又、会計職員は所属組合理事会の推薦書を添えなければならぬ。

第五十三條 連合会の役員及び職員にして、公務中事故により不具廃疾となつた場合は本人に、又死亡した場合はその家族に対して次のとおり手当金を支給するものとする。

不具廃疾の場合給与月額 六カ月分

死亡の場合 二カ年分

傷病治療費 金額

第五十四條 職員が業務上連合会に対して損害を与えた場合は、免職職務停止を行なうことができる。又、その損害額は本人がこれを補償出来ない時は、保証人がその損害額を弁償しなければならない。

### 第十三章 連合会運営

第五十五條 本連合会は単位組合より選出された代議員会を最高機関とする。

第五十六條 代議員会で議決された事項については、単位組合はその代議員の出席如何を問わず従わなければならない。万一これに従わない時は、理事会の決議によつて嚴重なる処分を行なうことが出来る。

第五十七条 代議員会は定例会、臨時会の二種とする。

A 定例会は毎年三月に召集する。

この代議員会においては、会計報告、事業報告、利益処分、積立金配当金、監査報告及び役員選挙を取扱ふも、その他の議事も審議することができる。

B 臨時代議員会は、連合会長、理事会、監事会が必要と認める時召集する。又三〇%以上の代議員より書面をもつて案件を附して召集を要請された時開会することができるも、この場合は召集理由に基づく議事日程のみにつき審議するものとする。

第五十八条 監事会はすべて理事会決定事項に対して、決定より三日以内にその再考を要求することができる。この場合代議員会の承認を受けなければならない。

第五十九条 前第五十八条に因して理事会が代議員会を召集しない時は、監事会により召集するものとする。又この場合、監事会が召集しない時は三〇%以上の代議員が開催を要求した時、連合会長は之を召集する義務を負ふものとする。連合会長事故のため不在の時は、専務理事が臨時代議員会召集の義務を負す。

第六十条 すべての会議はエンカルナオン連合会事務所で開催するを原則とするも、都合によつて召集権者がこれを決定する。

第六十一条 代議員会は適切な方法で議長を選出し、議事を審議する。

A 開会に当り、議長は議事録署名人を二名指名するものとする。

B 議長は、連合会職員をして議事録を作製せしめ、議事録署名と共に署名するものとする。

第六十二条 連合会長が代議員会を開催する場合は、七日以前に召集通知を発しなければならない。

A 代議員会の召集通知は本会々長の署名を要する。連合会長事故のため不在の時は、専務理事がこれを代理することができる。

第六十三条 代議員会は、總員の四分の三以上出席しなければ開会することができない。

A 代議員会の議決は、出席者の二分の一以上の賛成がなければ可決されない。

B 採決を希望せず賛否を表明しない者、又は退場した代議員は欠席者と見做して採決するものとする。

C 採決は投票法を用いることができる。この場合記名又は無記名によるかは状況により決定する。

D 単位組合の除名を決定する場合の投票は、秘密投票を採用するものとする。

第六十四条 代議員会を召集して、四分の三以上の出席者がなく開会出来ない時において、更に召集した場合は二分の一の者が出席すれば開会することができる。

この場合の採決は第六十三条に準ずる。

第六十五条 代議員会は委任状による代理行為を認めないものとする。

第六十六条 すべて会議に召集を受けて欠席した場合は、会議決定事項を受諾承認したものと見なす。

第六十七条 代議員会、理事会は重要事項を審議するにあたり、必要な場合は小委員会を設置して専門的に研究調査して、その資料を参考として決定することができる。

第六十八条 議長は会議当日審議事項以外の件、政治、宗教及び不必要な会談を禁止しなければならない。

第六十九条 記名投票の場合は、反対者が起立を行ない意志を表明することが出来る。

A 可否同数の場合は議長が決定する。

B 無記名投票の時は投票立会人二名によつてこれを確認する。

第七十条 定款第三条に定められた期限終結前における解散は、五分の三以上の代議員が書面によつて要求書を連合会長に提出した場合、代議員会によつてこれを決定する。

A 解散を目的とする代議員会の召集は左の方法による。

1 第一回召集を三十日前に行なう。

2 第二回を第一回召集満了期より二十日猶予後に行なう。

3 第三回を第二回召集満了後十五日猶予後に行なう。

B 本条に基づいて連合会解散を決定した時は、解散業務処理員を任命して残務を処理しなければならぬ。

第七十一条 解散のため召集した代議員会は、農牧省農業協同組合課長、又は同係官の出席を得なければならぬ。但しこれ等の出席がなくとも開会することができる。

第七十二条 解散議決は代議員の無記名投票によるものとする。この場合の代議員会は、連合会の解散可否についてのみ審議しなければならない。

第七十三条 連合会事業年度は毎年三月一日に始まり翌年二月末日に終る。

A 毎年二月末日に年度決算を終り、同決算報告は三月中に行なう代議員会に提出するものとする。

B 年度末決算書は代議員会八日前に監事会に提出し監査をおえた上、この結果を代議員会に報告しなければならない。

第七十四条 連合会は事業計画を履行するために必要な資金の借入をすることができる。この場合は、代議員会の議決を要し、その投資は代議員会が定める管理方式に従つて理事会が執行する。

A 資金借入及び資金貸出書類は、總て連合会長、専務理事の署名を要する。

第七十五条 連合会は単位組合の事業遂行を容易ならしめるため、資金貸付及び業務指導を行ない事業計画立案及びその実施に助言することができる。

A 又単位組合の業務、又諸器材の運用を相互調整し事業を容易ならしめることに努力しなければならない。

第七十六条 連合会は代議員会、理事会、監事会により管理される。

第七十七条 代議員会は各単位組合より選出された各々七名の代議員によつて構成する。単位組合は代議員選出に当り組合長、専務理事を前項七名の中に含めなければならない。代議員の任期は一年とし再選を妨げない。

A. 理事会は代議員会で選任された十二名の理事で構成される。理事の任期は代議員の在任期間とする。

第七十八条 理事会は代議員会の執行機関及び連合会の合法的代表機関とする。

第七十九条 理事会は定款規定、代議員会決定事項の範囲内で与えられた機能を行使してその任務を達成しなければならない。

第八十条 連合会長及び専務理事は理事の互選により選任する。

A. 理事会は必要と認める時は参事を任命することができる。参事は必要に応じて専務理事の機能を与えることができるが、此の場合是一年毎に理事会で任命を更新する。

第八十一条 理事会は連合会長又は三名の理事の要請で召集される。

A. 理事会は連合会長がこれを司會する。

連合会長が事故のため不在のときは専務理事又は一理事がこれに代わるものとする。

B. 理事会の通知は開会前三日に発しなければならない。

第八十二条 理事の死亡、辭任、除名等により三名以上の欠員を生じた場合は代議員で補充選挙を行う。この場合任期は前任者の残任期間とする。

第八十三条 専務理事以外の理事は無報酬とする。但し理事会への出席又は連合会の要請に基づき業務にたずさわつた場合は日当の支給を受けるものとする。その額は専務理事の報酬一カ月分の三十分の一を越えることができない。

第八十四条 各事業年度の理事会において専務理事及び参事の報酬を決定しなければならない。

A 理事会は専務理事に対し必要な保証金の設定を要求しなければならない。専務理事の権能を与えられた参事も亦同じ。

B 保証金は単位組合の株券、国債又は払込済みの三名の裏書のある手形で行なうことができる。

第八十五条 連合会長は連合会を代表し代議員会、理事会の召集を行ない代議員会、理事会の決定に基づく涉外事項を処理し、或は裁判に関する事項を代表し又連合会の事業、事務を監督する。

A 連合会長は必要のある時は単位組合相互の業務及び事務を統制、調整連絡し、代議員会及び理事会の決定事項の実施打合わせのために組合長会又は単位組合専務理事会議を開催することができる。

第八十六条 監事会は単位組合より一名あて選出された監事の中より三名を選出して構成する。任期は一年として再選を妨げない。

第八十七条 監事会は理事会の監視あるいは恒久的監査を行ない連合会の運営を監督する外、左の権限を持つものとする。

A 理事会の決定事項の再考方を三日以内に要請すること。

B 理事会、代議員会の開催を必要と認めた場合、理事会がこれに応じない時は臨時代議員会を召集することを連合会長に要請すること。

C 理事会に出席して発言すること。

但し議決に加わることはできない。

D その他監事会として特有権能を行使するために必要な場合、学識経験者及び専門家の協力を求めることができる。

第八十八条 監事会はその任務遂行に当っては連合会の業務を妨げない様に留意して職責を果さなければならない。

第八十九条 監事会は会議の都度会議録を作成して保存しなければならない。

第九十条 監事の中死亡、除名、辞任等により欠員を生じた場合は補充選挙を行なう。

この場合の任期は前任者の残任期間とする。

第九十一条 監事会は随時連合会の現金及び有価証券を調査し関係帳簿の検査を行なうものとする。又監

事会はその意見、注意事項、告発事項を理事会、代議員会に対してその判決を要請することができる。

第九十二条 監事会は代議員会開催八日前に理事会より送付された財産目録、損益勘定書を監査して代議

員会にその結果を報告しなければならない。

第九十三条 監事の報酬については第八十三条理事の場合に同じ。

第九十四条 次の場合においては定款の全面改正を審議することができる。

A 代議員の四分の三以上の代議員が連合会長に対して定款改正方を理由を付して文書で要請した時。

B 理事会が改正案を提議した時。

第九十五条 第九十四条の規定に拘らず定款の中、条内の部分的改正は代議員会で他の審議事項と共に審議することができる。ただし、この場合は理事会の提議した場合に限る。

#### 第十四条 附 則

第九十六条 連合会はその事業目的達成のため、第十一条に示す事業を行なう場合その事業毎に独立採算

勘定とし利益金は連合会の一般会計へ繰入れする。

第九十七条 単位組合が脱退、除名、法定解散の場合の出資金は負債を精算して残資産ある場合は次の要

償で払戻しする。

A 残資産の三〇% 一一〇日以内

B " 三〇% 二〇〇日 "

C " 四〇% 三六〇日 "

第九十八条 本定款に明記しない事項については別途に細則を設けて代議員会の決議を経てこれによつて

事業の円滑化を図るものとする。

第九十九条 本連合会はアスンソン、エンカルナソンその他必要に応じて代議員会の議決する場所に販売所、加工場、集荷所、連絡所を設置して事業の拡充強化に努めるものとする。

#### 改訂

第十三章第七十七条を左の通り改訂（組合法第三十条により）

代議員会は各単位組合の理事の中より選出された代議員と同じく監事の中より選出された代議員によつて構成する。

代議員の定数は組合員十五名に対し一名の比率をもつて選出された数とし、この選出に当つては組合長、専務理事をこの中に含めなければならない。

代議員の任期は一年とし再選を妨げない。

A 項同文

#### イタプア農協連一九五九年農年度事業計画

#### (序 誌)

この事業計画は一九五九年三月一日から一九六〇年二月末日に亘る第一年度における本連合会発足第一年の基礎確立を主体として計画したものであつて、連合会の漸次充実に伴なう事業の拡張は含まない。又長期計画については別途これを樹立する。

#### (組合活動)

創立四組合の結尾強化と管内未加入者に対する組合加入を速かに実現せしむると共に、次期ピラポ入植地の農協育成により連合体の強化拡大を図る。又、一方海協連、移住振興K・K、公使館等と密接な連絡

を図り移住地における最高の恩恵を常に確保し定着を迅速ならしめる。更に營農指導方針としては長期融資借入と呼応して永年作物の植栽に重点をおき、換金作物として日本向け大豆、マインスの生産を増大せんとする。大豆については目下三井、三菱、住友各商社に対し基礎的部門に就き折渉中である。

(組合事業)

一、農業生産加工事業

指定農産物を次の通りとする。(単位 町、屯)

一、短期作物

種別	作付面積	収量	摘要
マイス	一、七〇〇	一、七〇〇	一、二期まで
小麦	四〇〇	二五〇	
落花生	一五〇	一〇〇	
棉	一一〇	七〇	
米	五〇	一〇〇	
計	二、四二〇	二、二二〇	

二、永年作物

種別	作付面積	収量	摘要
ゼルバ(マテ茶)	一、三三五		摘、要
ツング(油桐)	一、二六九		既植分含む
ボメロ(グレープ・フルーツ)	五四〇		
計	三、一二四		

加工事業については手持資金皆無のため他よりの資金導入による他なく、かねて移住振興K・Kに対

し現物融資としてこれらの諸設備機材を申請中なるも未だその見透しなく今後本連合会の強化と相まつて必要に応ずる諸設備の融資を実現せしむるよう努力する。本年度において海協連補助金により共同作業所をラ・パス、サンタローサに夫々設置せんとする以外確たる計画なし。然し乍ら生産に関しては調査、統計等資料の充実を計り将来に備えんとするものである。

## 二、購買事業

生活必需物資の一元的仕入配給を行い組合員の生活費の節減を図るため購買品の卸事業を行う。従来の四組合実績に照し本年度中において凡そ五百万ガラーニの物資の供給を行なわんとするものである。尚アスンシオン市のノグス・フレリオ社並びに日本移住助成会を通じ日本品の輸入供給を併せ行う。

## 三、農産物受託販売事業

管下組合の生産物、主としてマيس、小麦、棉、落花生などの受託計画は次の通り(単位屯・ガラーニ) 組合別販売予想数量及び手数料  
(省略)

## 四、開発事業

昨年(五八年)十一月ピラポ植民地二三、〇〇〇町部が開放され移住振興K・Kがファミに引続き事業を行なうので、これにともなう開発事業を連合会に受入れるべく交渉中。

## 五、信用事業

本年度は金融事業は行なわずして預貯金の吸収に努める。

## 六、運輸事業

連合会所属のトラック二台は、農産物出荷最盛期を除いては外部の貨物輸送を行い、本事業の独立採算を確保せん。且下輸送内約のものは、ぜるば、週間一二屯向う一年間のエンカルナンオン・アスンシオン間輸送のみであるが、この外努めて貨物の吸収に全力をあげ、この事業による収入増加によつ

て速かにトラックの原価を消却せんとするものである。

### 七、文化厚生事業

本年度中において海協連三三年度補助金による小学校建築工事を行う予定である。又、小学校設立許可願は昨年十二月サンタ・ローサ二校、富士一校を夫々、国政府に提出済み。

富	士	三〇〇、〇〇〇	ガラニー
ラ	パ	一五〇、〇〇〇	〃
サンタ	ローサ	一五〇、〇〇〇	〃
チャ	ベス	一五〇、〇〇〇	〃
計		七五〇、〇〇〇	〃

尚病院設置については未だ成案なく参考資料蒐集の段階である。

### 八、倉庫事業

移住振興K・Kより月額一〇、〇〇〇ガラニーで賃貸借せるエンカルシオン倉庫家賃の負担軽減を図るため転貸又は倉敷による倉庫業を行う。その中既に転貸確定せるものは海協連に対する補助建物一切と倉庫一室であつて転貸家賃は月額五、〇〇〇ガラニーである。

一九五九年二月二五日提案

イタプア県農業協同組合連合会

創立発起人代表 富士農業協同組合長 高木 保

1960年6月1日

明日の国パラグアイ  
—その生活と開拓—

定価 100 円 (送料共)

---

財団法人 日本海外協会連合会

東京都中央区宝町2の6  
電話 (代表) 561-6194  
振替口座東京 95755

当会が皆さまに贈る出版物

海外移住（毎月一日、一五日 二回発行）

六カ月 一〇〇〇円（送料共）  
一カ年 二〇〇〇円

国内における移住の動き、海外における移住者の活躍などを伝えると共に募集の現状と予告、そしてその移住地の実情を解説する当会の機関紙。

移住ハンドブック

定価 一〇〇円（送料共）

第一篇は移住受入国ならびに各移住地の解説と移住するための型態・手続き等を教え、第二篇は移住随筆で移住する者の心構えや心得を説く。

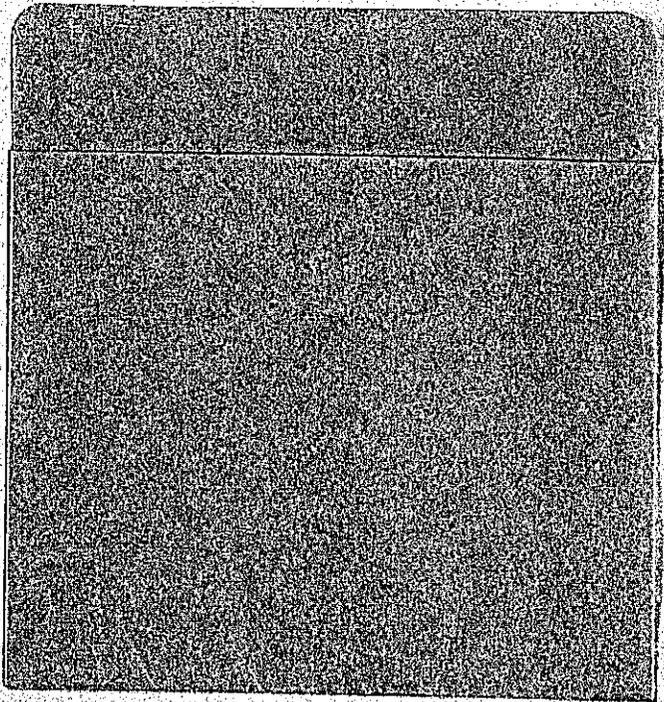
南米卓上地図

定価 一二〇円（送料共）

最新の南米各国の地図をもとに作成されたわが国で最も新しく、最も詳しく、最も移住者に便利な地図



81
17



## 地方海外協会一覽

北海道	道庁開拓経営課	滋賀県海外協会	県庁農政課
青森県海外協会	県庁開拓課	京都府	府庁農地開拓課
岩手県海外協会	県庁開拓課	大阪府海外協会	大阪府農林会館内 (東区法座町10)
宮城県海外協会	県庁農地開拓課	奈良県海外協会	県庁管理課
秋田県海外協会	県庁農地開拓課	兵庫県海外協会	県庁外務課
山形県海外協会	県庁農地開拓課	和歌山県海外協会	県庁移民課
福島県海外移住協会	県庁農林課	鳥取県海外協会	県庁農地開拓課
茨城県海外協会	県庁総務課	島根県海外協会	県庁農地開拓課
栃木県海外協会	県庁農地開拓課	岡山県海外協会	県庁文書季事課
埼玉県国連海外協会	埼玉県自治会館内 (浦和市高砂町4-49)	広島県海外協会	県庁外事課
群馬県海外協会	県庁外務課	山口県海外協会	県庁農政課
千葉県海外協会	県庁農地開拓課	徳島県海外協会	県庁県民課
東京都海外協会	都庁渡航移住課	香川県移住協会	県庁農地拓植課
神奈川県海外協会	県庁渉外課	愛媛県海外協会	県庁農地拓植課
新潟県海外協会	県庁秘書課	高知県海外協会	県庁農地開拓課
富山県海外移住協会	県庁農地開拓課	福岡県海外協会	県庁渉外移住課
石川県海外協会	県庁農地開拓課	佐賀県海外協会	県庁農地開拓課
山梨県海外協会	県庁広報課	長崎県海外移住協会	県庁農地開拓課
信濃県海外協会	県庁開拓課	熊本海外協会	熊本市長安寺町
岐阜県海外協会	県庁開拓課	大分県海外協会	県庁農地開拓課
静岡県海外移住協会	県庁農政課	宮崎県海外協会	県庁農地開拓課
愛知県海外移住協会	県庁農地開拓課	鹿児島県海外協会	県庁農地開拓課
三重県海外協会	県庁農地開拓課	琉球海外協会	沖縄那覇市工業高等 学専攻
福井県海外協会	県庁開拓課		

RY

Printed in Japan.